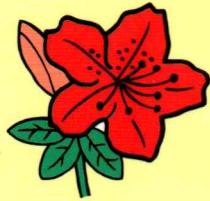


大正区制施行70周年記念誌

# わがまち大正



区の花 つつじ



大阪市大正区



# 目次

■ あいさつ .....	1
■ 祝 辞 .....	2
■ 昔と今のまちなみ .....	4
■ 区の概要 .....	7
■ 区勢主要指標－区の現状－ .....	8
・面積・人口・人口異動	
・人口・世帯数推移	
・区の一日	
■ 区の歴史 .....	11
・新田開発の推移	
・区名の由来	
・町名の由来	
■ 区の史跡・名所 .....	16
・寺社等・記念碑	
■ 河川・橋・渡船 .....	27
■ これからのまちづくり .....	36
■ 区制施行70周年記念事業 .....	40
・記念式典・タイムカプセル・記念植樹・祝賀会	
・連合対抗玉入れ	
・区民ふれあいウォーキング	
・記念誌の発行	
■ 各種団体等の紹介 .....	42
■ 主要事項年表 .....	62
■ 歴代区長・歴代市会議員・歴代府議会議員 .....	66
■ 区制施行70周年記念事業実行委員会名簿 .....	68
■ 区制施行70周年記念事業賛助団体等名簿 .....	69
■ 空から見た大正区 .....	70
■ あとがき .....	72

【表紙写真】  
架橋中の(仮称)「千歳橋」



## 区制施行70周年記念誌発刊にあたって

大正区制施行70周年記念事業実行委員会

委員長 宮 城 清 市



わがまち「大正区」は、昭和7年10月1日に港区から分区して、平成14年10月で70周年を迎えることができました。

当初、区名を何にするかでいろいろと意見が分かれたそうです。そこで、区民のみなさんから募集したところ、大正橋にちなんで「大正橋区」という要望がたくさんあったようですが、「大正橋区」は長すぎるということで「大正区」と命名されたそうです。

この70年の間には、戦争や風水害など幾多の困難がございました。なかでも地盤の低い大正区は、昭和9年の室戸台風をはじめとして、幾度かの台風により、大きな被害と多くの方々の犠牲をみたところです。戦後復旧事業の中で、水防対策が最大の課題となり、昭和22年から半世紀にわたり実施された「土地区画整理事業」のほか、防潮堤のかさ上げ、水門の設置などにより災害に強いまちづくりが進められました。今日では、道路の拡張、上下水道の完備などの都市基盤の整備に伴い、住・職・遊のバランスのとれた、緑豊かな、住みよい町に生まれ変わりました。この間、大正区の発展のために尽くされた多くの先人の方々のたゆまぬご努力に対し、敬意を表するとともに深く感謝を申しあげる次第です。

さて、70年の歴史と伝統を次の世代に引き継ぐためにも、この機を記念して実施しました「記念式典・祝賀会、記念植樹、タイムカプセル、ふれあいウォーキング」など、心に残る記念事業の記録や最近10年間の区勢のあゆみ、さらには区内各種団体の紹介等、写真を中心とし、できるだけ見やすく読みやすい記念誌となるよう一考しました。何かの参考資料としてご活用いただければ幸甚に存じます。

一連の記念事業を契機として、区民相互の連帯意識の高揚と真に心と心のふれあうあたたかい、人情味あふれる、明るい、住みよい、優しい大正区のまちづくりが一層進展いたしますことを節に念願するものでございます。

また、記念事業の実施にあたりまして、記念事業実行委員会の皆さんをはじめ、多くの皆さんの暖かいご支援ご協力をいただきましたことに対しまして心から厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、21世紀の大正区の新たな発展と区民皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申しあげましてごあいさつといたします。



# 区制施行70周年を祝して



大阪市長 磯 村 隆 文

大正区が区制施行70周年を迎えたことは誠に喜ばしい限りであり、区民の皆様に心からお祝い申しあげます。

昭和7年10月1日に発足した大正区は、戦災や風水害など幾多の困難を乗り越えるとともに、区民の皆様のご理解とご協力により半世紀にわたる歳月をかけた土地区画整理事業が完成し、今日の整然としたまちなみが形成され、大きく飛躍、発展を遂げました。

また、近年、地下鉄大正駅が開業し、文化・スポーツ・コミュニティ・医療福祉施設も相次いで整備されるとともに、鶴浜沖の埋め立ても完了をみるなど、豊かなウォーターフロントを活かした快適で住みよいまちとして、今後ますますの躍進が期待されております。これもひとえに区民の皆様をはじめ、関係各位の多大なご尽力の賜と深く敬意と感謝を申しあげます。

大阪市では、皆様方のお力添えをいただき、だれもが住みなれた地域で安心して暮らせるよう、市民福祉の一層の向上に努めるとともに、内外から多くの人・もの・情報が集まり、新しい産業や文化を創造する国際集客都市の実現をめざし、様々な施策を展開しております。

また、市民スポーツの振興を図り、大規模な国際競技大会を招致開催するなど、スポーツを通じて交流する「スポーツパラダイス大阪」の実現に力を注いでおり、今後とも、市民の皆様が誇りに思い、ゆとりと豊かさを実感できる「21世紀のモデル都市・大阪」の実現をめざし、積極的に市政を推進してまいりますので、皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

区制施行70周年を機として、大正区がますます発展いたしますよう祈念してお祝いのことばといたします。



# 区制施行70周年を迎えて

大正区長 池 上 良 夫



わたしたちのまち大正区が区制施行70周年を迎えたことを、心からお喜びを申し上げます。

この間、区政が順調に進展してまいりましたことは、区民の皆様方の区政各般にわたるあたたかいご支援とご協力の賜であり、厚くお礼を申しあげます。

この記念すべき年を迎えるにあたり、区制施行70周年記念事業実行委員会を組織していただき、各方面から格別のご支援を賜り、記念式典並びに祝賀会をはじめ、数多くの有意義な記念事業を企画実施され、大正区のさらなる発展にご尽力をいただき心から厚くお礼を申しあげる次第でございます。

さて、大正区は昭和7年に誕生して以来、戦災や風水害さらには震災など幾多の苦難がございましたが、今日では、その面影すら忘れさせるほどに整然とした緑豊かな住みよいまちに発展してまいりました。わたしたちは、この先人が残された偉業を継承し、21世紀を担う次の世代とともに活力と魅力にあふれ、ふれあいとぬくもりのある大正区のまちづくりを進めてまいらなければならないと考えております。

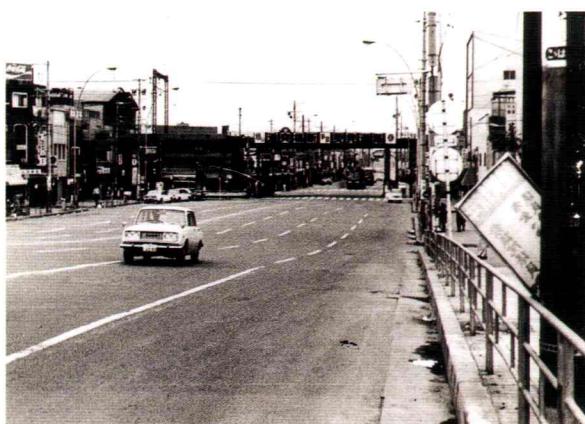
鶴浜沖の埋め立ても完了し、今後は土地利用計画の具体化や地下鉄の区内延伸問題につきましても、区民の皆様のご意見をお聞きしながら、早期実現に向けてさらなる努力を重ねてまいりたいと存じます。また、大正内港にかかる(仮称)「千歳橋」も、いよいよ今春には開通の予定であり、区内を循環する道路を形成し、地域の新しいランドマークになると思っております。

区制施行70周年を契機として、高齢社会に対応できる保健、医療、福祉の充実したまちづくりを促進するとともに、“だれもが住みたい、住んでよかった”と思える区政を積極的に進めてまいる所存でございますので、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

終わりになりましたが、区制施行70周年記念事業の実施にあたり、ご支援とご協力をいただきました関係者の皆様方に厚くお礼を申しあげますとともに、区民の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申しあげまして、ごあいさつといたします。

# 昔と今の中のまちなみ

## 大正駅付近



昭和47年ごろ

## 岩崎橋付近



昭和42年ごろ

## 三軒家東6丁目交差点付近



昭和44年ごろ

## 区役所付近



昭和44年ごろ



## 北恩加島付近



昭和44年ごろ



## 小林・千島付近



昭和45年ごろ



## 大運橋交差点付近



昭和40年ごろ



## 鶴町1丁目付近



昭和44年ごろ



## 大正内港付近



昭和40年ごろ

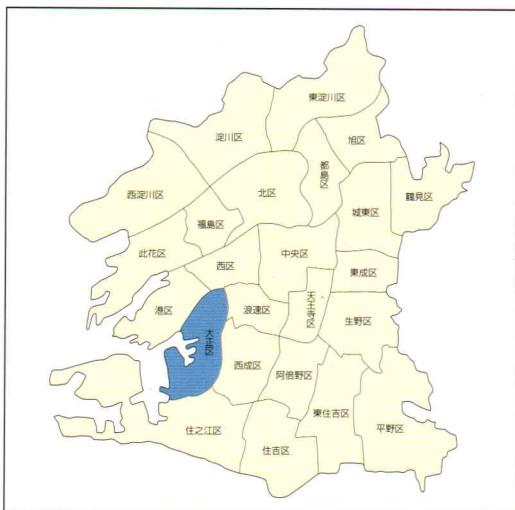


# 区の概要

大正区は、市の南西部に位置し、大阪湾に面し区の三方を木津川、尻無川、岩崎運河に囲まれ臨海工業地帯として発展してきた。

48年間にわたる土地区画整理事業が平成6年に収束し、21世紀の都市基盤が整い区民一丸となって、だれもが「住みたい」「訪れたい」というまちづくりを進めている。

区の中央部に位置する千島地域は、総合庁舎・体育館・コミュニティセンター・図書館などの公共施設が配置され、区のシンボルである標高33メートルの港の見える丘「昭和山」を中心とした千島公園は、四季折々の花と緑に囲まれ、多くの小鳥のさえずりも聞こえ、コミュニティづくりの拠点となっている。春には区の花「つつじ」や桜が公園一帯に咲きほこり、「せせらぎ」も整備され、水辺は憩いの場として子どもからおとしよりまで広く親しまれている。



北村地域は、高齢者や障害者などに対応した総合的な医療・福祉ゾーンとして病院・老人保健施設などの整備が進められており、平成14年4月に知的障害者施設が開設されるなど、より一層整備充実が図られている。また潮風の中でプレーできるテニス場「マリンテニスパーク・北村」は全天候型25面コートとナイター設備が完備され、区民はもとより広く市民の方が利用されている。

高齢社会における在宅福祉・総合相談窓口の拠点として「大正区ふれあい福祉センター」を中心に、4カ所の在宅サービスステーションも整い、在宅介護の支援に大きな役割を果たしている。

平成11年にオープンした複合施設「アゼリア大正」は、音楽ホール・スポーツセンター・温水プールなどを備え、区民の健康増進と文化交流、スポーツ・コミュニティづくりの活動拠点として利用されている。

交通網は、地下鉄「長堀鶴見緑地線」が平成9年に「大正駅」まで延伸され、都心へのアクセスも充実してきた。隣接区との連絡橋として西成区への「千本松大橋」に加え、住之江区へ「新木津川大橋」、港区へ「なみはや大橋」と大阪湾を見下ろす長大橋が完了した。さらに、区内連絡橋として大正内港にかかる（仮称）「千歳橋」が平成15年春に開通予定である。一方、市内に8カ所ある渡船のうち7カ所が当区にあり、「動く橋」として運航され、区民に親しまれている。

鶴浜沖の埋め立ては平成13年7月に完了し、区民から豊かなウォーターフロントを活かして、賑わいのある港湾空間の創出と地域の活性化を促進する開発が求められており、新たな拠点づくりとして開発計画が検討されている。

平成14年10月に区制施行70周年を迎える区民のまちづくりにかける気運は高く、その英知と活力を活かして「住・職・遊」のバランスのとれた魅力あふれるまちづくりに取り組んでいる。

# 区勢主要指標

## 一区の現状－

面積・人口・人口異動

項目	大正区	大阪市	比率	備考
行政面積	9.43km <sup>2</sup>	221.82km <sup>2</sup>	4.25 (%)	平成14年10月1日現在国土地理院発表
人口(総計)	74,064人	2,619,335人	2.83	平成14年10月1日現在推計
// (男)	36,768人	1,281,362人	2.87	//
// (女)	37,296人	1,337,973人	2.79	//
世帯数	31,183世帯	1,202,225世帯	2.59	//
1世帯あたり人口	2.38人	2.18人	—	//
人口密度	8,042人／km <sup>2</sup>	11,821人／km <sup>2</sup>	—	//
本籍数	32,870	1,158,048	2.84	平成14年3月31日現在
本籍人口	96,500人	3,036,464人	3.18	//
出生	956人	38,135人	2.51	平成13年度中
死亡	970人	35,605人	2.72	//
婚姻	1,196件	44,595件	2.68	//
離婚	460件	14,868件	3.09	//
転出	2,478件	120,399件	2.06	//
転入	2,218件	133,676件	1.66	//

人口・世帯数推移

世帯数	(世帯)	人口			1世帯あたり人口(人)	調査名
		総数(人)	男(人)	女(人)		
昭和7年	25,200	110,500	61,300	49,200	4.38	推計人口(概数)
10	28,169	131,037	74,349	56,688	4.65	国勢調査
15	30,183	137,931	76,883	61,048	4.57	//
20	8,542	27,637	15,582	12,055	3.24	人口調査
25	15,176	59,784	32,078	27,706	3.94	国勢調査
30	18,006	78,012	41,200	36,812	4.33	//
35	22,985	93,377	50,024	43,353	4.06	//
40	25,528	95,509	50,198	45,311	3.74	//
45	25,343	88,954	46,085	42,869	3.51	//
50	27,077	88,485	45,163	43,322	3.27	//
55	27,899	84,041	42,524	41,517	3.01	//
60	28,517	82,330	41,585	40,745	2.89	//
平成2年	29,833	81,269	40,957	40,312	2.72	推計人口10月1日現在
7	30,432	78,372	39,303	39,069	2.58	国勢調査
8	30,697	77,707	38,924	38,783	2.53	推計人口10月1日現在
9	30,730	76,907	38,479	38,428	2.50	//
10	30,809	76,302	38,131	38,171	2.48	//
11	30,881	75,785	37,829	37,956	2.45	//
12	30,943	75,042	37,414	37,628	2.43	国勢調査
13	31,041	74,466	37,035	37,431	2.40	推計人口10月1日現在
14	31,183	74,064	36,768	37,296	2.38	推計人口10月1日現在



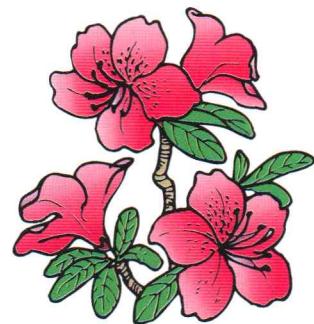
# 区の歴史

## ◆大正区の生い立ち

大正区の歴史は、今からさかのぼること400年前の江戸時代初期から始まった新田開発のころからというのが、定かな文献で知られる歴史といえます。しかしながら、古事記では、すでに仁徳天皇が難波島あたりを行幸されたと記されています。このことは、木津川下流の砂州に始まり、難波八十島といわれた古代の島の一つが大正区の始まりともいえるのではないか。

そして、江戸、明治にかけて、木津川を掘り起こし川底の泥土砂を積み上げ堤防を築いて、たんぼや畑に開墾し陸地を増やしていったのが新田開発であり、現在の南恩加島あたりまでがこの工法によるものです。

明治の初めは、大阪府西成郡に属し、明治30年4月に大阪市に編入し、大阪市西区となり、大正14年4月に西区から分区して港区の一部に、その後昭和7年10月1日に港区から独立して大正区が産声をあげたのです。(以下、詳細については、既発行の「わが大正区」、「大正区史」、「わがまち大正」をご参照ください)



## ◆西大阪の新田開発

西大阪は、その昔、大阪が難波と呼ばれていたころは海であり、大阪湾が生駒山脈から千里山丘陵のあたりまで入り込んで「難波江」となっていた。この入り海に北から淀川、南から大和川が流れ込み、下流部に次第に土砂を堆積させ、これに海からも砂や海草類が打ち寄せて、長年の間に上町台地の西方にも、いくつかの砂州ができ、これらが集まって「難波八十島」が形成されていた。

これらの砂州のなかには、かつての下船場のように、堀川を掘り上げて土砂で市街地が造成された区域もあったが、さらにその沖合になると一段と低湿地であったため、新市街地の造成は断念され、それに代わって新田が造られることになった。こうして新田開発事業は、慶長(1596~1615)のころから始まり幕末まで続いたが、造成された新田は数十カ所に及び、その面積は大阪市域のほぼ三分の一に達した。

西大阪の新田は、川口新田と呼ばれ、淀川、大和川などの河口に形成された三角州を干拓したものである。その開発にあたっては、まず新田の周囲に堤防を築いて、それらの土地を高潮から守る必要があった。当時造られた堤防は、西大阪における防潮堤建設の第一歩となるもので、高潮との苦闘を繰り返しながら新田を守り続けてきた。新田は江戸時代、幕府によって大いに奨励され、当初は庄屋を中心に村人が共同で開いたが、江戸中期以降は、町人勢力の台頭とともに町人が幕府から請け負い、独力で開いた「町人請負新田」が多い。大正区の新田開発は次のとおりで、時期的には江戸時代初期(第1期)、元禄年間(第2期)、宝暦・明和・安永期(第3期)、文化・文政以後の幕末(第4期)の4期に分けられる。

## 新田開発の推移

新田名		開発年代	開発者	所在地
第1期	三軒家村	慶長15年（1610）	中村勘助	大正13年までの三軒家上之町
	三軒家地子	元和年間（1615－24）	難波島の漁師 助右衛門ら移住	大正13年までの三軒家下之町
	難波島地子	寛永年間（1624－44）	難波村 氏原甚左衛門	住居表示までの難波島町、今木町
第2期	泉尾新田	元禄15年（1702）	和泉踞尾村 北村六右衛門	大正14年までの泉尾町
第3期	炭屋新田	宝暦13年（1763）	大阪瓦町 炭屋三郎兵衛	住居表示までの新炭屋町
	千島新田	明和5年（1768） 天保13年（1842）	東成郡千林村 岡島嘉平次	住居表示までの千島町
	今木新田	明和7年（1770） 安永7年（1778）	岡島嘉平次	住居表示までの今木町
	平尾新田	明和8年（1771）	大坂江戸堀 平尾与右衛門	住居表示までの平尾町
	中口新田	安永元年（1772）	難波島 中口勘右衛門	昭和36年難波島町に合併されるまでの中口町
	上田新田	安永3年（1774）	三軒家村 上田伝兵衛	明治17年千島新田に合併される
第4期	南恩加島新田	文政12年（1829） 明治4年（1871）	岡島嘉平次	住居表示までの南恩加島町
	北恩加島新田	天保2年（1831）	岡島嘉平次	住居表示までの北恩加島町
	小林新田	天保3年（1832）	岡島嘉平次	住居表示までの小林町
	岡田新田	天保3年（1832）	岡島嘉平次	明治33年小林町に合併される
	千歳新田	弘化2年（1845）	西成郡長柄村 木下延太郎 岡島嘉平次	住居表示までの新千歳町

## 人（そのプロフィール）

### 中 村 勘 助 —————

中村勘助源義久彰徳碑が八坂神社の社殿のかたわらにあり、背面の刻文は、空襲で傷つけられたため全文の判読は困難だが、三軒家東小学校百周年記念誌に掲載されている碑文全文は次のとおりである。

中村勘助、姓は源、諱は義久、新田義貞の末流にして資性剛直沈勇なり。其の木津村に住むの故を以て、時人之を木津勘助と呼ぶ。豊臣家摂海の要害を完備する為め、姫島即ち今の三軒家北岸に軍船碇繫所を建設するに方り、勘助船舶安全の施設を以て大阪開発の要務なりとし、慶長十五年沿岸一帯に堤防周築の計を立て自ら奮て其工を起す。爾来刻苦勵精萬難を排し、遂に之を完成し、此に倚て内田圃を開き、外風波を防ぎ、船舶の碇泊始めて安きを得。豊臣家其の功績を賞し、此地を勘助嶋と稱せしむ。勘助又大阪市内舟楫の便を増進せんと欲し、寛永七年木津川を浚渫す。其の後幕府田制を改正せるの故を以て農民の困苦尠からず、會々寛永十八年飢饉あり、餓殍道塗に満つ。而も幕府の処置其の宜しきを得す。勘助憤慨惜く能はず、挺身之が救済を圖りし可熱誠の激發するところ其の所為却て制規を逸し、為めに罪を獲て斬に処せらる。時に萬治三年十一月二十二日年七十有五。惟ふに勘助は独り三軒屋村の開祖たるのみならず、亦大阪に於ける水利の恩人なり。乃ち此に碑を立て其の功を勒し、以て後昆に傳ふ。

山 口 真 臣 識  
清 水 南 岸 書

#### 【主な用語の読み方と意味】

諱	(き)	死者の生前の名前
内田圃	(内田んぼ)	新田
舟楫	(舟のかじ)	
浚渫	(しゅんせつ)	川底の土を取って深くする
餓殍	(かぶ)	餓死者
道塗	(どうと)	道路
而も	(しかも)	逆接の助詞
惜く能はず	(おしくあたわず)	
挺身	(ていしん)	率先
斬	(ざん)	打ち首
獲て	(とりて)	とらえて

中村勘助（1586－1660）については経歴に諸説があり、区内八坂神社に碑が建てられているが、碑文の内容についても疑問点が指摘されている。勘助は相州（神奈川県）足柄の生まれで、新田義貞八代目の子孫とされているが、新田義貞とのつながりは疑問視されている。先代に連れられて流浪し、慶長15年（1610）木津に移住、豊臣家の姫島北岸軍船係船所建設工事に従事、姫島を開発した。勘助の木津川浚渫によって船運はよくなり、幕府は入港の船から米五合を入津料として取得することを決めた。これが大阪における五合船の始めである。

寛永18年（1641）の飢饉の際、農民を引き連れ下難波領の幕府の米蔵を襲ったというのは、当時下難波領には、まだ幕府の米蔵はできていなかったので、事実と異なる。勘助らが襲ったのは中之島の福岡藩蔵屋敷で、海路運ばれてきた御用米を蔵屋敷に納める際に奪い、難民に分け与えた。勘助は奉

行所に自首、二ヵ月の入牢のあと勘助島へ流罪となり、さらに切られたとなっているが、これも疑問視されている。勘助は、勘助島預けとなったあと、正保4年（1647）に上八坂神社を勧請し、木津に浪花稻荷大明神のほこらを建てており、これからみると島預けは形式的なもので、市中出入りは自由であった。また切られたというのも疑問で、万治3年（1660）11月26日、老衰死が事実のようである。

## 北 村 六右衛門

正保元年（1644）和泉国大鳥郡踞尾村（現堺市）に生まれ、幼名を宗俊といったが、のち六右衛門を名乗り、代々これを襲名した。慈悲深く、ち密な反面、豪放で強い意志を持ち、資産家であったため、新田開発の大事業が遂行できた。宝永4年10月の大地震と津波で、新田は壊滅的な被害を受けながら復旧できたのは、彼の不屈の意志によるところが大きかったが、翌宝永5年（1708）3月死去。65歳であった。

## 岡 島 嘉平次

東成郡千林村（現旭区）の岡島嘉兵衛の子で、宝永6年（1709）に生まれた。この初代嘉平次が、木津川、尻無川間の浅州の干拓に着目、大阪町奉行と京都所司代に願い出たが、ともに許されなかつたので宝暦7年（1757）江戸表に出て幕府に直訴し許可された。嘉平次は直ちに、木津川から尻無川までの開拓地123町歩余の地代銀4,305両を納めて、千島新田から事業に着手した。初代嘉平次は天明2年（1782）千島新田に移住し、同6年（1786）11月、死去したが、遺志をついだ子孫が新田開発の大事業を遂行した。

以上「大正区史」より

## 区名の由来

「大正区」は、住民の意向を尊重し、大正橋にちなんでつけられた。

最初の原案は「新港区」であったが、区民から意見を募ったところ大正橋にちなんで「大正橋区」が多かったが、大正橋区は長すぎるので「大正区」となった。

## ●大 正 橋

大阪の“島”といわれた大正区を、都心につなぐ唯一のメインルートとして大正4年8月、市電の開通とともに架けられた。長さ90.62m、幅22.15mで、通航の船をさまたげないよう橋脚を持たないアーチ橋として、京大出身の増田工学士が設計した名橋である。この橋を架けるとき近くのガス会社が、石炭運搬の船が通れなくなるとして、知事を動かして反対運動を起こし、一方架橋賛成派は植村俊平市長をかつぎ出し、府、市の対立に発展した。とどのつまり、大正橋の上を通る市電の特許を国と府から保留された植村市長は、明治45年7月引責辞職する一幕もあった。

また設計者の増田工学士は、大正橋が完成した翌年の大正5年1月、なじみ芸者と伊予道後で心中事件を起こし、大正橋心中として騒がれた。橋はその後、たび重なる台風や地盤沈下で痛めつけられ、交通混雑緩和のため広い橋に架け替えることになり、昭和44年4月、まず下流側に一橋が架けられ、古い橋を取り去った跡に昭和49年3月、二橋目を架け、二橋を合わせて新大正橋が完成した。長さ79.96m、有効幅員41m（歩道幅員4m）である。

## 町名の由来

大正区の町名は、ほぼ新田の名称を継承したものと、埋め立て地に新しくつけたものの二通りである。

## ●三軒家（旧三軒家村）

三軒家村は、もと木津川尻の小島で、姫島（日女島）または丸島といわれたが、慶長15年（1610）、一説には正保4年（1647）、木津村の中村勘助（通称木津勘助）が開発したので、勘助島と呼ばれるようになった。この地が三軒家と称されるようになったのは、勘助の開発当時、三軒の民家が建てられたからといわれる。

## ●泉尾（泉尾新田）

元禄11年（1698）10月、和泉国大鳥郡踞尾村の北村六右衛門が開墾し、当初三軒家浦新田といわれたが、最初の検地が行われた元禄15年（1702）3月、泉尾新田と改称した。

開発者の国名（和泉）、村名（踞尾）から一字ずつをとり命名した。

## ●北村（泉尾新田）

泉尾新田の開発者である北村六右衛門の苗字から命名した。

## ●千島（千島新田）

開拓者の岡島嘉平次が自分の居住村名（千林村）の千と、姓の（岡島）の島をつなぎ合わせて、千島新田と命名した。

## ●小林（小林新田・岡田新田）

小林新田・岡田新田の名は、ともに開発者である東成郡千林村の岡島嘉平次に因るものであり、小林は千林から、岡田は岡島からとった呼称であることに由来する。岡田新田の方が広い面積を有したにもかかわらず、「小林」を町名としたのは、小林新田にしか住民がいなかったことによる。

## ●平尾（平尾新田）

平尾新田は大坂江戸堀の平尾与左衛門が開拓。与左衛門の姓をとって平尾新田と名付けた。

## ●南恩加島（南恩加島新田）

南恩加島新田は、文政12年（1829）二・三代岡島嘉平次によって開墾された。時の代官岸本武太夫は、その功績をたたえ恩加島新田と称させた。

岡島を恩加島と換用したものであるが、恩加島には後世に恩を加えるという意味があった。

このあと明治4年まで数回にわたって増懲され、はじめは単に恩加島新田といわれたが、のち二分して南恩加島・北恩加島となった。

## ●北恩加島（北恩加島新田）

四代目嘉平次が文政（1818～30）のころから開発を始め、天保2年（1831）に検地が行われた。

はじめは南恩加島新田とともに一つの新田で、南恩加島新田と呼ばれたが、のち南北に分けられた。

## ●鶴町・船町・福町

大正8年3月埋め立て地に町名が設定され、鶴町・船町・福町が誕生したが町名決定の由来は、万葉集卷六の田辺福麻呂がよんだ「潮干ればあしへにさわぐあし鶴の妻よぶ声は宮もとどろに」の鶴と、同じく「あり通う難波の宮は海近みあまおとめらが乗れる船見ゆ」の船と、詠者の福をとったものである。

※福町は、昭和51年の住居表示の実施にともない、鶴町5丁目の全域と南恩加島5～6丁目、鶴町1～3丁目の各一部となつた。

# 区の史跡・名所

## 小林産土神社

鎮座地：小林西1-7-13

天保3年（1832）の勧請で、天照皇大神、応神天皇、住吉大神を祭っている。江戸時代の初期より幕末に至る新田開発により開墾されてできた小林新田（京新田）、岡田新田による農民の守護神として創建され、祭神としての住吉大神の守護により土地の安全と豊作を祈願した。夏祭は南・北地区の太鼓みこし、獅子舞など町中を練り廻って賑わった。特に材木の町として栄えた大正、昭和の時代では賑わいの頂点であった。戦災で全焼したが復旧し、神事も継続され戦後の土地区画整理事業により現在地に遷宮された。



## 八坂神社

所在地：三軒家東6-14-12

通称下八坂神社といい、寛永2年（1625）三軒家地方の開拓者らが建立、素戔鳴尊（天照大神の弟）を奉祭したのが起源と伝えられる。安政2年（1855）社殿を改築、境内を拡張整備した。明治5年村社となり、同40年から4年間に新炭屋の高津宮（祭神仁徳天皇）、平尾の八坂神社（祭神素戔鳴尊）、千島の天満宮（祭神菅原道真）、新千歳の八幡大神宮（祭神応神天皇）、南恩加島の天満宮（祭神菅原道真）、北恩加島の天満宮（祭神菅原道真）の村社六社を合祀した。同44年5月、国からの幣帛料を受ける神社に指定される。昭和11年5月社殿を改築したが戦災で焼失、同21年3月、仮社殿再建24年本殿、41年幣殿と拝殿が完成した。三軒家の地概況神徳で港町として栄えた伝承により、同神社では、ささ付き宝船を節分の夕方の参拝者に授ける習慣があり、これをまくらの下に敷いて寝るとよいことがあるといわれている。

## 上の宮八坂神社

鎮座地：三軒家東2-7-18

上八坂神社といわれている。正保4年（1647）9月、三軒家の開拓者「中村勘助（木津勘助）」が京都祇園の八坂神社の分霊を勧請し、素戔鳴尊を祭ったのが起源であるという。社殿は初め三軒家東2丁目のほぼ中央にあたる丸島に建てられたが、宝永4年の大津波で水害を被ったため、正徳年間（1711～16）に富が岡と呼ばれる景勝の丘上に移った。これが現在の社地である。

大正8年に「中村勘助彰徳会」を興し境内に彰徳碑を建立した。昭和20年3月に戦災により社殿は焼失したが、その後昭和32年5月に再建され、平成8年11月御鎮座350年祭が盛大に斎行された。



## 二間屋

江戸時代の前期の地図に二間屋の地名が上八坂神社付近に書かれているが、これは上八坂神社と下八坂神社を結ぶ道のことを指したようだ。この道は井路川を埋めてつけられたもので、両側の畠ではスイカやおたふく豆が多く栽培された。

## 天満宮

所在地：南恩加島1-3-41



天保7年（1836）、南恩加島の開拓者三代目岡島嘉平次が、道明寺天神（祭神は菅原道真）の分霊を産土神として、平尾町に近い木津川沿岸に奉斎したのが起源といわれる。明治43年11月、下八坂神社に合祀されたが、氏子の反対で社殿はそのまま存続、戦災で炎上したのにも屈せず再建し、戦後独立の神社となった。昭和33年4月、都市計画により現在地に移った。

## 神明神社

所在地：鶴町2-7-29

御祭神は天照大神・八幡大神・春日大神であり、初め後陽成天皇の御代に京都の西院に祀られたが、元和2年（1616）初代大坂城代松平忠明により大坂城・町中の守護神として大坂に移された。以後内平野町に在り、朝日の神明・夕日の神明と共に大坂三神明の一つに数えられ日中の神明又は照日の神明と称せられた。

忠明が立てた大坂夏の陣の軍功は、西院に屯した折の祈願の靈験によるものと大坂に移され、爾後大坂の祈祷所と呼ばれ、特に勝運に靈験あらたかな神様として、北浜堂島の相場師や船場井池の商人の崇敬をうけた。また毎月16日の夜は参詣客が群をなし、屋台商人が列をなし大変賑わい、これが大坂の夜店の発祥と言われている。大正13年松屋町筋拡張工事のため社地狭小となる折、特に鶴町住民の熱烈な誘致により、鶴町・船町の氏神として当地に遷座している。



## 泉尾神社

所在地：泉尾2-17-8

元禄11年泉州踞尾の人北村六右衛門公許を得て泉尾新田開拓にあたり、事業の成功・土地の繁栄を祈願するため三軒家東の地に産土神社を奉斎したのが創始である。平穏な農村の氏神として崇敬されていたが、明治41年村民の願いにより茨住吉神社に合祀された。大正7・8年諸産業の興隆に伴い泉尾も住民が激増、氏神信仰を生活の中心とした当時の風習として九条迄の参拝は遠距離であり神社側も考究の末、昭和11年内務省異例の認承を受け現在地を買収、石垣を築き「飛地境内神社泉尾神社」が創祀され同17年壮麗な檜造の社殿が造営されたが戦災のため灰燼と帰した。



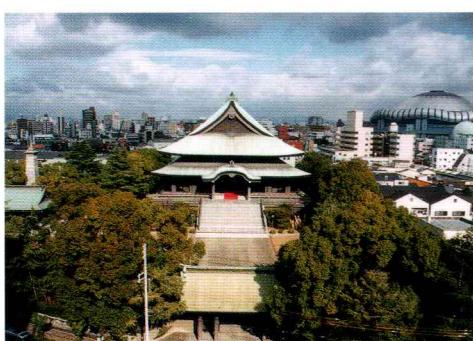
昭和29年敬神の念篤い氏子住民の奉賛により現在の総檜造りの社殿が造営され、逐次境内の内外も整備清新な景観を誇る境域に参詣者が絶えない社と発展する。平成2年茨住吉神社の寛大な容認により、又境内地の無償譲与も受け、神社本庁の承認を得て分離独立、平成4年大阪府知事の承認により「宗教法人泉尾神社」として設立登記された。創祀以来、再度の変遷を経て300年余 泉尾の地の守護氏神として鎮座、氏子住民も泉尾地域の繁栄を招来せる神明の加護を敬仰、事業経営、土地開拓、寿命、安産、学問、交通安全、勝運の神として崇敬されている。祭神は住吉大神、大國主神、八幡大神である。

## 金光教泉尾教会

所在地：三軒家西3-8-21

昭和2年（1927）1月、北泉尾町1-173番地に、先代教会長三宅歳雄が布教、当時は信徒のうち農家や職人が多かったが、急速な都市化で同6年には農家はなくなり、商人や勤労者に変わった。昭和24年末から北泉尾町2-106の敷地に泉光園の建設に着手、ジェーン台風で被害を受けたが、25年12月完成、神殿も園内に遷座した。ついで42年10月に鉄筋構造の大会堂と付属建物の改築工事が落成した。平成8年9月15日から文化庁所属の宗教法人となっている。

なお、境内の泉光園は大阪府緑の百選に選ばれている。



## 高天原本宮

所在地：泉尾2-3-9

当神社（高天原本宮・高天原本宮奥津宮神社）は、神仏習合の神社であり、福島県「大野八幡宮」を発足として16神の神々の御靈を御神示により当神社に鎮座。

開祖は「鈴木倫」で主祭神は「高天原神祖太源皇大神」「五大権現大神」「五大力不動明王」である。道徳の根源として、過去、現在、未来、因果応報の原理を正して生活の上に悟りを開かせ、先祖の因縁を解消していくこととしている。



## 万福寺 所在地：泉尾1-39-18

山号を西陽山といい、浄土真宗本願寺派に属する。万治2年（1659）了安によって、三軒家村の専称寺（真宗大谷派、1628年開基）北隣に、大正区の東西本願寺対立の形で創建された。



寛文10年（1670）8月、津波のため流失、翌年再建、その後も移転、改築を続け、明治44年2月、三軒家西2丁目に移ったが、昭和4年市電軌道敷設のため現在地に移転した。数少ない非戦災寺院の一つで、享保4年（1719）からの過去帳を秘蔵し、明治5年に制定されたこの地方の戸籍は、同寺の人別帳をもとに作成された。また、三軒家に出入りした北前船乗組員の病死者も過去帳に載せられている。

## 真光寺 所在地：泉尾1-30-20

土佐北川城主 北川玄蕃守の一族、東弥吉郎信智は永禄12年の長曾我部の兵火で主君の戦死にあい、また天正10年の山崎合戦を経て世の無常を感じ、同18年得度、土佐安芸の庄に一草庵を結んだ。これが当寺の起源。天保3年、11世教善が寺域を移転、安政5年、12世善梁が現寺号公称。大正末期、15世正導が大阪に開教したが、太平洋戦争で中断、昭和28年16世顕誠が再度開教、同35年、浄土真宗本願寺派に属し現在に至る。



## 了照寺 所在地：三軒家東4-15-7

元禄11年（1698）に泉州大鳥郡踞尾村（現在の堺市津久野町）の住人第四世北村六右衛門宗俊が、三軒家以南の湿地帯を干拓して新田開発に着手し、元禄15年（1702）に完成した。その新田は開発者の出身地の和泉国（泉州ともいう）の「泉」と踞尾の「尾」を取って、「泉尾新田」と名づけられた。



開発者の北村六右衛門は仏教の篤い信奉者だったので、新田の完成に際し、開発のために犠牲になった人夫や魚介類の菩提を弔い、庵寺を建立した。宝暦13年（1763）その寺名を六右衛門の法名「了貞」と、妻の伊和の法名「照貞」から一字ずつ取って「了照寺」と定めた。昭和20年3月の大空襲で本堂や庫裡とともに貴重な寺宝の大半を焼失したが、元禄時代の本尊の阿弥陀如来像や北村六右衛門夫婦の木像は焼失をまぬがれ本堂に安置されている。

## 帰命寺

所在地：平尾5-4-4

初代（開祖）は、周防の国山口県佐波郡富海村石原の円通寺の長男であった児玉大芳（1800～1883）で明治16年に83～84歳で亡くなる。

浄土真宗西本願寺派に属し、江戸末期から明治の初めにかけて、六条新田（千歳新田）の開発に力を入れた西本願寺の直轄領であり、この地方における拠点の寺であった。もとは尻無川の新田に布教道場として、大我山帰命堂を開いたのが起源で、天保11年（1840）西本願寺（津村別院）が開拓を始めた六条新田内（のち新千歳町）に移転し帰命寺と改称した。慶応（1865～68）には、明如上人がこの地方を巡教し、帰命寺にも立ち寄って布教した。大正5年頃、尻無川の改修工事のため、北恩加島町61番地に移転。さらに昭和34年5月大正内港の拡張工事のため現在地に移転した。



## 順教寺

所在地：泉尾1-33-26



開祖は伊東海心で明治40年頃（1907）赤澤説教所から譲り受け、北区河内町の順教寺門徒の方々が多数、泉尾、三軒家方面に移り住み泉尾新田開拓に従事し、その人々の精神的中枢として、大正4年（1915）に真宗興正派説教所を設立する。その後昭和3年（1928）に順教寺に改名し、昭和27年（1952）に宗派を伊東純秀により真宗大谷派に転派し現在に至る。

## 真宗大谷派 正等寺

所在地：平尾4-7-1

当寺は、真宗大谷派に属し、阿弥陀仏を本尊にする。福井県勝山市にある福井正等寺を本家とし大阪に分家をした。門徒を守るために、昭和10年北恩加島に正等寺説教所を建立し、布教活動を開始した。周辺には、沖縄県出身の方々が多いこともあり、在阪沖縄県人会の方々の御先祖をお守りしている。

昭和20年6月の空襲により全焼したが、多くの信徒の努力により再建し、昭和33年、都市計画により現在地に移転した。



## 専称寺

所在地：三軒家東 2-5-9



寛永5年（1628）3月、僧敬順（慶順とも伝えられる）が、東本願寺宣如上人から、「姫島山」の山号を賜り、自宅を改造して一字としたのが当寺の始まりである。寺の話では、その昔やんごとなき都の姫君がこの島にのがれ住んだ故事から、万葉の古歌にも「いもが名は、千代に流れん姫島の・・・」と歌われ、以来この島は姫島と呼ばれ、寺の山号もこれに由来するという。一説には、大坂落城による落武者が仏門に入り、姫島に草庵を結んで専称精舎と称したのが縁起とも伝えられ、戦災までは刀剣武具が保存されていたといわれる。境内が比較的高地にあったため、高潮被害など受けることも少なく、多くの宝物や古文書を伝えていたが戦災で焼失した。真宗大谷派に属する。ちなみに文治元年（1185）源義経は兄頼朝の追討をのがれて九州を目指し、尼崎の大物浦を船出したが、大風に吹き戻されたところが姫島であった。義経主従は対岸の木津の浜に泳ぎつき、四天王寺にひそんだ後、吉野入りしたといわれる。

## 碇庵

所在地：三軒家東 4-11-24

阿弥陀仏を本尊として、船の碇にこの御本尊様がひっかかって沖にて引き上げられ、引き上げた人々は有り難く思い、本尊を祀ることにしたと伝えられている。

それでこの尼寺の名を船の碇にちなんで碇庵と名付けた。戦前は尼寺としての位も高かったが戦後は時代の流れとともに、規模ともに縮小された。

浄土宗の教えを守り、人々の心が慰められる寺として歩んでいる。



## 東林寺

所在地：三軒家東 4-11-16



延宝2年（1674）頓竜和尚が難波島に建立、阿弥陀仏を本尊とし、東林庵と称したのが始まりといわれ、その後、荒れ果てていたのを安永5年（1776）4月浄土宗金台寺（天王寺区）の11世獅闘和尚が再建したという。大正8年1月白雲山東林寺と改称、昭和20年3月の戦災で焼失、同24年9月区画整理で立ち退き現在地に移転した。

現在、浄土宗鎮西派に属する。

## 呑海寺

所在地：三軒家東 6-15-3

この地は元禄15年（1702）泉尾新田が完成するまでは、難波島の一部で、新田開拓の人たちが多数住んでいた。寛文10年（1670）8月23日に襲った台風で、漁村の家は倒れ、飯場は跡形もなく吹き飛んで、浜には船とともに多数の水死者が打ち揚げられた。その中に観音菩薩像一体が見つかり、住民たちは「水死者をお導きに来られたのだ」と感激、寛文12年（1672）僧休清を発起人として仮堂に安置した。検地奉行青山大膳の計らいで、この地を免租とし、時の代官大芝六兵衛が「呑海庵」と名付けたと伝えられる。



その後の災害では一人の水死者もなく、誰言うとなく島民は「浪除觀世音」と称え敬った。寛政6年（1794）3月再建、明治36年8月本堂、庫裏を造営した。浄土宗鎮西派（総本山知恩院）に属し、男僧から尼寺となつたが、現在は男僧寺で昭和21年に「呑海寺」と改称され、常は秘仏として扉は閉まっているが、例年節分当日のみ御開帳する習わしがあり、当日は全国津々浦々からの参詣者でぎわっている。

## 南天山 西福寺

所在地：泉尾 3-15-10

歴史は新しく淡路島より当山第一世住職の上山雄教師が来阪して、南泉尾町にあった大泉坊隨求寺に身を寄せた昭和18年1月に始まる。この隨求寺は米使ペリーが浦賀に来港した嘉永6年（1853）の2月、今の天王寺区下寺町から芦が生い茂る南泉尾の地に移転したと伝えられる。しかし今回の戦災で本堂、伽藍が焼失し廃寺となつた。

その境内にあった不動尊をいたみ、師は寺の再建に高野山金剛流詠歌布教師として、托鉢布教を行つた。そのかいがあり昭和22年11月に再建、大泉坊西福寺と称した。その後平成4年11月には、第二世住職雄慈が新しい感覚で都市の開かれた寺院として、地元出身の建築家井上博夫夫妻の設計により、今のモダンな建築様式で建立され、堂内には真言密教の金剛界マンダラ四仏のステンドグラス（森川展成作）が、まばゆいばかりに輝いて莊嚴味を増している。境内には本尊の安産の地蔵菩薩、誓願水かけ不動、修行弘法大師があり、そのあらたかな靈験を求めて早朝からお参りする人が絶えない。

## 普照教会

所在地：鶴町 3-16-3

本尊は弘法大師。当山は、この地の完成とともに、高野山普門院磯長僧正が、人心のよりどころ、また、海上安全を計らんが為に堂宇を建立する。大正13年、宥照大僧正中興せられ、爾來真言密教の法灯絶えず長く檀信徒の帰依信仰を集める。

二世義照僧正は、一身を法燈護持に捧げ大師信仰の宣揚に尽くし寺門興隆に努められる。戦争による大空襲又度重なる高潮による大水害から復興し、当山の今日の輪奐を飾るに至る。



## 高野山真言宗 大運寺

所在地：小林東3-7-7



弘法大師を本尊とし、祖廟中心の宗是に基づき高野山真言宗の教義をひろめ、儀式行事を行い信者を教化育成し祖風宣揚、密教興隆、衆生済度の聖業に精進し、その他寺院の目的を達成するためいろいろな業務及び事業を行っている。

## 日蓮宗定徳山 真行寺

所在地：三軒家東4-7-7

開祖は真行院日解上人（能勢妙見山真如寺第31世）であり、大阪における法華経布教の拠点とするため、大正14年に大運橋通りに創建した寺である。

本堂に奉安している宗祖日蓮聖人像は享保5年（江戸中期1720）に真如院日等上人（大本山法華経寺第56世）の作で、尊首の内部に御真筆の法華経一巻が安置されている。寺号は開祖の真行院からとて「真行寺」と称する。昭和35年真行寺2世日法上人（能勢妙見山真如寺第32世）の代に、寺門発展のため現在地へ寺を移転し現在に至る。また、宗祖700遠忌の砌に総本山身延山久遠寺より釈尊涅槃図並びに宗祖涅槃図を下賜され所蔵している。



## 妙法寺

所在地：三軒家東4-13-6



法華宗大本山本能寺の末寺として、天明5年（1785）日年上人によって創建され、はじめ「泰心庵」と称した。

明治30年頃、本能寺102世 日鑑上人が当寺に穩居され、「妙法寺教会所」と改称されてより、京都本能寺、尼崎本興寺、両本山末寺の従弟養育寺院として寺歴を重ねる。

幾年かの無住時代の後、本能寺塔頭源妙院より日汪上人が入山され、昭和4年本堂を再建されるが昭和20年3月の大阪大空襲において堂宇焼失。この時、日汪上人は火中に端座して唱題のもと殉死される。これにより、住職夫人が剃髪して法灯を継ぎ、昭和26年「妙法寺」と公称。本堂右手奥に法華経守護の三十番神堂がある。

## 地 藏 院

所在地：三軒家東 4－5－9

山号を弘法山と号し真言宗高野派南坊法案寺の坊末にして地蔵菩薩を本尊とし、摂津之国第31番靈場である。元禄元年（1688）「快圓」の開創で、寺はもと東成郡住吉村字大領にあったが、高野鉄道（いまの南海鉄道高野線）建設の際立ち退きとなり、明治34年4月現在地に移転し、境内は400坪あまりを有していたが戦災にて全焼し、後の区画整理で現在は160坪に縮小された。

開祖の「快圓」は、厳格な人柄で多くの門人を育てたが、中でも江戸時代の国学者「契沖」の師で、高野山修行時代に大きな影響を与えたと記録されている。境内には「快圓」の墓と大阪紡績大火の際の犠牲者の合同慰靈碑がある。また昭和に入り院内に幼稚園を設け子どもたちの健康と育成に尽力し戦後に閉園となったが、飾り井戸が当時のおもかげを今に伝えている。



## ■ 中村勘助源義久彰徳碑 ■

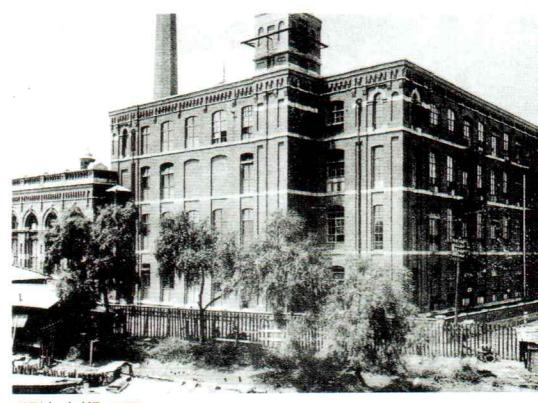
八坂神社（三軒家東 2－7）の社殿のかたわらにあり、大正6年12月、氏子らが中村勘助彰徳会を結成して建てた。（背面のこく刻文については、13ページのプロフィール参照）



## ■ 近代紡績工業発祥の地 ■

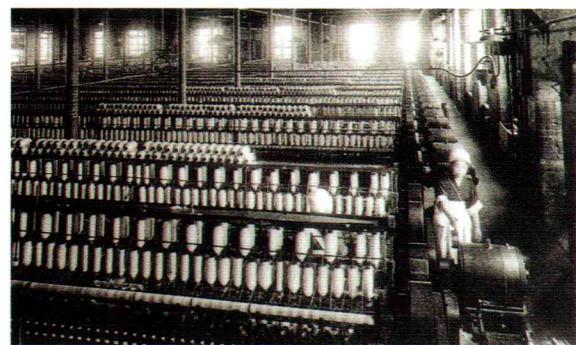
大阪紡績三軒家工場があった三軒家公園（三軒家東2丁目）の西北隅に、「近代紡績工業発祥の地」の記念碑があり、昭和35年、大阪市によって建てられた。同工場は、紡績工業の振興はもとより、三軒家の発展に大きな力となったが、明治21年、のちの山辺丈夫社長の一人息子、三軒家小学校（現在の三軒家東小学校）3年龍一君（8つ）が同工場で慘死する悲劇が起きた。黄八丈の長い袂のついた着物を着て遊んでいるうち、袖から体全体を紡機のベルトに巻き込まれた。同社長は工場に入るといい聞かせていたが、自由に入り出し遊んでいたらしい。

葬儀は三軒家始まって以来の立派なもので、岩崎の火葬場へ行列の先頭が着いたとき、しんがりはまだ自宅前だったという。山辺社長は、愛児の死を悼んで、明治23年新築二階建ての龍一教室（13.5坪＝44.6m<sup>2</sup>）を同校に寄付、さらに教科書代として250円を差し出し、恵まれない子どもたちの購入費



明治末期ごろ

に充てられた。龍一教室は同44年3月、山辺社長からの寄付金800円で改築された。この悲劇は、明治25年12月の大坂紡績の大火とともに、工場建設の際タヌキの巣をつぶしたたたりといわれている。

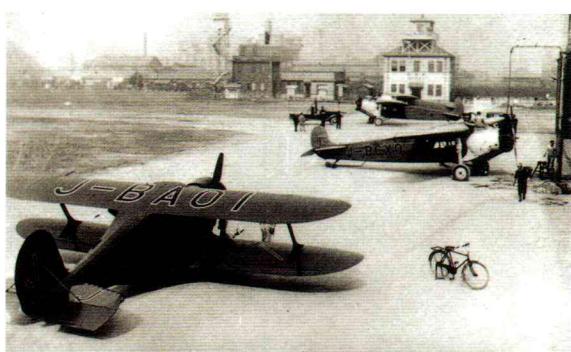


三軒家工場内部

## 木津川飛行場

飛行場熱の高まりから大正9年通信省に新設された航空局は、大正区船町の231,000m<sup>2</sup>（軍用地と市有地）を飛行場用地に内定した。大正15年から拡張整備にかかり昭和3年3月、389,400m<sup>2</sup>の整備を終わり、昭和4年4月から公共の木津川飛行場として供用を開始した。

日本航空輸送会社が大阪と名古屋、福岡間に毎日2往復、日本航空輸送研究所が大阪と高松、白浜間に週末一往復運航、旅客、貨物、郵便の輸送にあたった。つぎつぎ増便し昭和13年の年間発着は定期5,107回、不定期3,676回、旅客10,124人、取扱貨物38,700余kg、郵便97,700余kgで、国内飛行場のトップクラスにあつた。



昭和初期ごろ

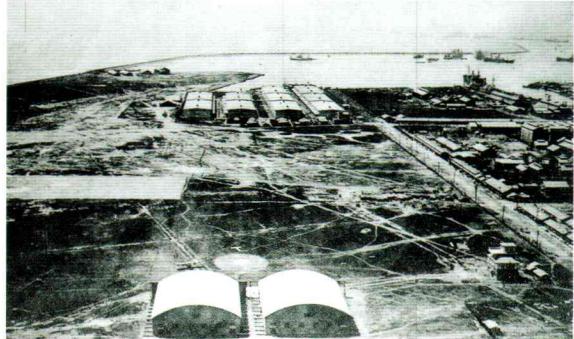
しかし都心から遠い周辺工場の煙霧に悩まれ、さらに沖合に南港ができると飛行場としての機能が低下するとの航空局の申し入れで大阪市は昭和6年9月、南港に飛行場の設置を内定し、南港計画を練り直した。南港につくられる国際航空（大和川国際飛行場計画といわれていた）

の用地は590,000m<sup>2</sup>が予

定されていたが、その後海軍当局から「狭すぎる」とクレームがついたほか、離着陸に不適当との声もあり、そのうち戦局の激化で通信省は昭和17年5月、同計画の白紙還元を決め、南港の国際航空化は幻に終わった。この間通信省は、予備飛行場を昭和14年1月兵庫県伊丹市に開設、次第に国際飛行場として発展するにつれ、木津川飛行場は衰退した。

なお、木津川飛行場では陸上機が就航する以前に、大正12年7月から日本航空会社が川崎機械製作所から施設を譲り受け、水上機を大阪～別府間に就航させていた。

現在飛行場の面影はなく新木津川大橋の上り口に碑が建っている。



昭和4年ごろ



## ■ 船囲い場の跡 ■

木津川、尻無川、安治川は船虫（カキ）を駆除するのに効果があるといわれ、毎年冬には北国航路の和船が休航、係留する習慣があった。とくに木津川は一千艘以上となり混雑したので、船だまりを造る必要があった。西区西長堀の長尾新兵衛が出願して、明治12年4月から、三軒家と難波島の間の三軒家川を開削する工事にかかったが、コレラの流行や請負業者との紛争で翌13年7月免許取り消しを願い出た。以後大阪府が事業を継承して14年末に完成させた。広さは53,940坪（178,000m<sup>2</sup>）あり、難波島町、今木、炭屋、千島、中口、上田、三軒家の各地が開削されたが、明治41年以降は港湾整備が進んで利用が減り、後には貯木池に利用された。

## ■ 船番所の跡 ■

大正橋西詰めから北、岩松橋の架かる岩崎運河のあたりには、もと尻無川との間をつなぐ小流れがあり、その木津川との三角点に船番所が置かれ、川を上下する船の取り締まりにあたった。船番所の後方には付属の船蔵があった。大坂船奉行は最初一人であったが、寛文5年（1655）正月から二人となり、天和3年（1683）からまた一人となった。



明治6年ごろの船番所

## ■ 今木町の刑場 ■

難波島の今木新田は明和7年（1770）から安永7年（1778）にかけて開拓され、その北端に幕府の木津川口刑場が設けられた。いまの三軒家東2丁目付近である。刑場では蘭法医らによる刑死人の解剖が行われ、なかには研究のためその人体を無断で持ち帰るものもあった。解剖を行った主な人たちは、寛政8年（1796）大坂城御定番藩医宮崎某、寛政12年（1800）4月、大矢尚斎、伏屋素狄、各務文献、文政7年（1824）6月、産科の賀川南竜（秀哲）、中天游、斎藤方策、中宣平らで、緒方洪庵の適塾の書生たちも解剖社を結成、この刑場で人体構造の研究をしていた。刑場は維新後間もなく廃止された。

## ■ 白長大明神 ■

南恩加島は幕末のころキツネが多く、木津川堤防に空けられた住みかの穴から浸水して、水害を大きくしたことがたびたびあった。そこで大運橋の近くに茂る大木の洞穴に住みついたキツネを災い除けの神としてほこらを作り、祭っていたのが南恩加島7丁目の白長大明神である。このあたりではキツネだけでなくタヌキやイタチも、明治中期まではよく見かけられたという。

## ■ 千島公園 ■

千島公園の中心にある、港の見える丘「昭和山」は標高33mで、平成14年10月1日国土地理院の発行する地形図、大阪西南部に千島公園とともに「昭和山」と記載された。



「昭和山」は、万国博関連工事で建設が急がれていた地下鉄工事の残土など、約170万m<sup>3</sup>（ダンプカー57万台）の土砂で造られた人工の山です。その頂上からは、六甲の山並みや港大橋、なみはや大橋、（仮称）千歳橋が手に取るように眺められ、麓には千島下水処理場の高度下水処理水を利用した「せせらぎ」も整備され、その恵まれた自然は区民の憩いの場となっている。



# 河川・橋・渡船



## ■木津川■

土佐堀川から分派して南流し、西区千代崎の東岸沿いに大正橋に至り、大正区の東方を南下、南恩加島で西へ大きく曲がって大阪港に入る。延長8,657m、面積1,462,035m<sup>2</sup>で、干潮水深は昭和5年10.5m、昭和15年9.4m、昭和27年3.2mと次第に浅くなり、平均幅員は昭和27年の調べで169mであり、一級河川に指定されている。

この川は古くから開け、豊臣家の軍船停泊所の建設、中村勘助の木津川浚渫、江戸幕府の船番所、河村瑞賢の難波島中央部切開、泉尾新田への用水導入、船囲い場、天満屋敷など多くの史実に彩られている。江戸時代から明治初期にかけては、諸国の回船が多く集まり「木津川二十四浜」を賑わした。上荷船はこの浜で回船から荷物を受け取って目的地に運び、市中からは問屋の商品を浜に運んだ。川船業は組合独占制であった。



二十四浜のうち大正区には、敷津浜、勘助島上ノ浜、同中ノ浜、同下ノ浜、今木浜、三軒家浜、難波島浜、瀬ノ浜、落合浜などがあり、浜ごとに上荷船の所属が決まっていたが、三軒家浜は10~15隻、勘助島は三浜全部で30隻ほどをかかえていた。このあと上荷船は、機船に押されて次第に衰退した。明治20年ごろまで木津川は船の出入りが多かったが、その後伸びは鈍り、水運のよい安治川に主導権を奪われた。大正元年の川筋の停船数は、安治川の2,221隻が最も多く、木津川1,336隻、尻無川620隻となっている。第一次世界大戦による造船ブームや工場の進出で木津川は再び活気を取り戻した。

## ■尻無川■

西区本田1丁目で木津川から分流し、千代崎と九条の境を南下、大正区の西方を通って大阪港に入っていたが、昭和27年3月、西区のJR環状線から以北が埋め立てられた。現在は木津川の分流点（左岸・三軒家東1丁目、右岸・西区千代崎橋3丁目）から大阪港まで3,919m、面積419,444m<sup>2</sup>で、岩崎運河を含めたものとなっており、一級河川に指定されている。

もと両岸の堤防に櫨の木を植え、ロウの原料としてその実をとったもので、晩秋のころは尻無川の櫨として風流を楽しむ見物客でにぎわった。



「摂津名所図会大成」には、河の両堤は数町の間、黄櫨の並樹にして、紅葉の頃は水に映じ、“から紅ひに水くる”と詠じたる龍田の川も及ばざる光景なりと書かれている。泉尾中堀に架かる紅葉橋に、その風情をとどめていたが、これも埋め立てられ廃橋となった。



明治後期

昔は、川幅十間（18m）足らずで水深も浅く、船の航行に不便だったので、大正3年から5年までの3カ年継続工事で改修工事を行い、新櫨橋から下流の川幅を三十六間（65.4m）に広げ川底を浚渫、さらに大正9年12月、岩崎運河を開削して道頓堀川と直結させた。この工事のとき櫨橋が撤去されて新櫨橋が架けられ、北泉尾の堤防にあった民家は立ち退きとなり、岩崎橋付近の岩崎墓地と、紅葉橋付近の泉尾墓地は阿倍野へ移された。岩崎運河が開削されたあとの尻無川は、船の出入りが増えて一時は木津川を上回った。戦後、河口付近は内港化工事で様相を一変した。

## ■三軒家川■

難波島は、江戸時代はじめ木津川尻にあって、木津川、三軒家川両水路の分岐点となり、水路の障害となっていた。元禄12年（1699）河村瑞賢は、この島の中央部を切開して、木津川の水を一直線に海に導いた。島は月正島（現在の浪速区）と難波島に二分された。三軒家川は昭和33年1月、高潮対策のため木津川分流点から紡績大橋下流まで約340m、全長の約三分の一が埋め立てられ、この部分は三軒家と地続きになった。川の埋め立てで紡績大橋と百済橋は廃橋となったが、百済橋は橋の外郭がそのまま残されている。

現在の三軒家川は、三軒家東3丁目地内から木津川合流点まで865m、29,405m<sup>2</sup>で、難波島と三軒家川の中央部を国道の木津川大橋が横切っている。戦前まで難波島にあった東林寺の境内には、もと船着き場や灯台があったといわれ、回船業でにぎわった往時を偲ばせている。



## 大正区に架かる橋

### ◀大正橋▶

旧大正橋は、工業地帯として急速に発展していた大正区と旧市内とを結ぶ幹線道路として大正4年に初めて架けられた。支間長90mという当時日本で最大のアーチ橋であった。設計基準の確立されていない時代に設計されたということもあって傷みが激しく、都市計画道路の拡幅を機に下流側に新しい橋が架けられ、昭和46年に撤去され、その後、上流への拡幅が行われ、49年に大正区と浪速区を結ぶ現在の姿（橋の長さ79.96m幅員41m）となった。この橋の欄干を五線譜に見立てて、ベートーベン作曲の第九の譜面が、また歩道にはメトロノームの堰堤、歩道にはピアノの鍵盤がデザインされている。東詰北側には小公園が整備され、その中には安政2年（1855）に前年大坂を襲った大津波の模様を記録した大きな石碑が建てられている。



昭和35年ごろ



昭和45年ごろ



## ◀ 岩崎橋 ▶

岩崎橋は、岩崎運河が大正9年12月に開削されたことに伴い、同9年に大正区と西区を結ぶ橋が架けられたもので、市電「九条高津線」が走る橋であった。この頃は、橋の構造が「鉄橋」から「鉄筋コンクリート」へ変わる過渡期で、中之島の難波橋は「鉄橋」と鉄筋コンクリートの混合橋であったが、岩崎橋は市内で初めての「鉄筋コンクリート橋」としてお目見えし、その後、道頓堀の戎橋が続いた。岩崎橋は昭和40年5月と同49年3月に拡幅が行われ、現在長さ75.6m、幅員19.2m（歩道幅員1.5m）となった。平成13年・14年の秋に岩崎橋と岩松橋との間、大正区側の尻無川護岸壁に「描こう！わがまち大正ギャラリー」として、区民の手で将来の町並みなどが描かれている。



## ◀ 岩松橋 ▶

岩松橋は、市電「松島南恩加島線」の建設に伴い、大正11年7月、岩崎運河に大正区と西区を結ぶ長さ66.5m、幅員35m（歩道幅員12.25m）の橋が架けられ、この橋は岩崎橋と同様「鉄筋コンクリート橋」である。その後、道路は幅員が拡幅され、35mになっている。



昭和50年ごろ



## ◀ 大浪橋 ▶

大浪橋は、昭和12年3月、大正橋下流の三軒家浜通2丁目（現三軒家東1丁目）から浪速区に架かる、第2次都市計画道路「難波泉尾線」の橋となったもので、大正区と浪速区の頭文字をとって大浪橋と名付けられた。長さ81.5m、有効幅員19.4m（歩道幅員2.4m）で、橋の両サイドに取り付け道路（大正区側長さ63.8m、幅20m）が付けられた、その後、本橋は拡幅されて、幅員は21.7mとなっている。



昭和38年ごろ



## ◀ (仮称) 千歳橋 ▶

(仮称) 千歳橋は、鶴町4丁目と北恩加島2丁目を結ぶ大正内港の架橋で、大正区内の環状道路を形成して地域交通を円滑にするとともに、地域の道路網の中核となる大正通（一般府道大阪八尾線）の交通緩和に寄与するもので、緊急時の避難救援路の役割をも担うものである。

主橋梁は大正内港を渡る部分のアーチ部（275m）とトラス部（90m）からなる365mの橋で、それぞれを境のヤードにおいて組み立てられている。

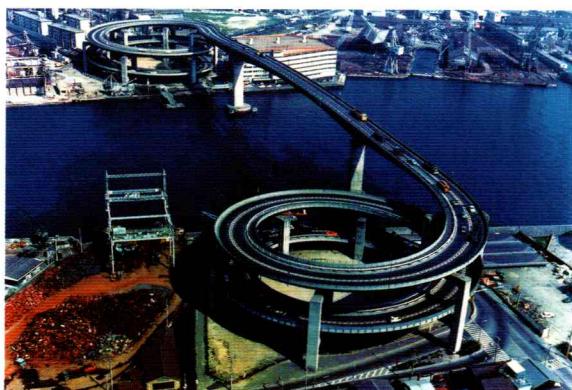
大正内港に非常に珍しい形式となる左右非対称のアーチ橋（2径間連続ブリースドリブアーチ橋）がその姿をみせ、地域のランドマークとなるのではと期待されている。

この橋の建設費には、大正地区復興土地区画整理事業の収束に伴う事業資金20億円が拠出されている。



## ◀ 千本松大橋 ▶

千本松大橋は、周辺地域の発展と市中央部の交通混雑の緩和を目指して、木津川の最下流にあった千本松渡し（当時8,000人近い人と二輪車を運んでいた）の位置に建設された。



財団法人大阪市都市工学情報センター提供

この橋は大正区南恩加島と西成区南津守を結ぶ長さ323.5m、有効幅員9.75m（歩道幅員2.25m）の大橋では初の「らせん橋」で、昭和48年10月に完成した。橋の中央部の高さは36mで、水面からマストまでの高さ34mの船なら、楽に運航でき、橋の両サイドに坂路高架がつけられ、大正区側は長さ452.4m、有効幅員12.25m（歩道幅員2.5m）となっている。この橋の完成で、南大阪から大正区の工業地帯へ直接車の乗り入れができるようになり、これまでの市内経由の大回りが解消された。この橋は「めがね橋」の愛称で親しまれている。

続いて臨港地帶には、港大橋（昭和49年）、平林大橋（昭和51年）、かもめ大橋（昭和51年）、新木津川大橋（平成6年）、なみはや大橋（平成7年）などジャンボ橋群が形成された。

## ◀ 大船橋 ▶

大船橋は、区内の南恩加島7丁目と工業地帯である船町1丁目の間にある木津川運河に架かる橋で、長さ113.30m、幅員15.56mで、大正区と住之江区を結ぶ新木津川大橋へ行く連絡橋の一つで大型トラックやトレーラーの通行が多い橋である。



## ◀ 新木津川大橋 ▶

新木津川大橋は、大阪港一帯の「テクノポート大阪」計画のもとに文化、スポーツ、レクリエーション、居住のためのエリアと施設を盛り込んだ複合的な都市機能の拡充が図られ、臨港地区に環状道路網をつくり、物流の充実と周辺道路の混雑緩和を目的に架けられた。

木津川の河口に位置し、大正区と住之江区とを結ぶ橋で、河川内の航路（幅150m、高さ46m）確保のため、全長2.4kmに及んでいる。この橋は川を渡る主橋梁（長さ495m幅員11.25m）と両岸のアプローチ橋で構成され、主橋梁の形式は経済性と施工性に加えて景観面も考慮してつくられた。大正区側のアプローチ部（長さ880.96m、幅員12.75m）は、用地の制約から3層ループ形式が採用された。

現在、この形式としては日本最大で、大阪港を代表する橋の一つとなっており、平成6年に土木学会の「田中賞」を受賞している。

この橋は、車道と歩道に分かれており、歩道部は人も自転車も利用できるようになっている。



財団法人大阪市都市工学情報センター提供

## ◀ 大運橋 ▶

大運橋は、区内の南恩加島7丁目と鶴町1丁目の間に市電橋として架けられた木橋で、老朽化したため昭和33年3月永久橋に架け替え、取り付け坂路のかさ上げが行われた。その後、大阪八尾線の道路拡幅が進められたことに伴って、橋の長さは58.3m、幅員18mから25.26m、歩道もそれぞれ、5.0mと3.5mに拡げる工事に着手し平成15年春には完成の見込みである。

道路は平成8年の「なみはや大橋」の開通に伴いトラックなどの大型車の通行が非常に多くなっている。



昭和50年ごろ



## ◀ 西福橋 ▶

西福橋は、鶴町の2・3丁目と5丁目の工業地帯を結ぶ、長さ38.5m幅員10mの橋である。

## ◀ 南福橋 ▶

南福橋は、鶴町1丁目と5丁目の工業地帯を結ぶ、長さ35.2m、幅員14mの橋である。

## ◆ なみはや大橋 ◆

なみはや大橋は、尻無川の河口部に位置し、大正区と港区の放射線状道路を連絡し、港湾地域の災害時の避難路及び救援路としての役割も担っている。

本橋は、諸条件により、渡河部平面線形が変則的な曲線となった長大橋（長さ580m幅員11m）で中央支間長（250m）は国内最大で、大正区側の高架部分は長さ500m幅員11mの橋である。なお、この橋は、大阪市としては2番目の「有料道路橋」である。



## 大正区の渡船場

周囲を水に囲まれた大正区は、大正初期まで大部分がのどかな農村地帯で、陸路の交通機関の発達は遅く、水路を行き来する小船と、木津川や尻無川の渡しが重要な交通機関であった。

渡船は江戸時代からはじまり、木津川の「落合上渡し」と「落合下渡し」、尻無川の「甚兵衛渡し」はいまも続く古い歴史を持つ渡船である。自動車の利用が多くなった現在も、渡船は続いており、動く橋として利用するかたわら近代都市の風物詩となっている。

大阪市内の渡船は、現在8カ所あるが、そのうち7カ所は大正区内にあり、区民の生活に日々利用され欠かせない存在である。



昭和40年ごろ



渡し位置図（平成14年）

### 甚兵衛渡船場



大正区泉尾7丁目と港区福崎1丁目を結ぶ「甚兵衛渡し」は、その昔「甚兵衛さん」と呼ばれる茶店がそばにあったことから名付けられたと言われている。

大正高校や泉尾高校、泉尾工業高校の生徒の利用が多いところで、川幅（尻無川）は94mである。

## 千歳渡船場

北恩加島2丁目と鶴町4丁目の大正区内を結ぶ「千歳渡し」は、通勤や買い物など日常の交通手段として利用される方が多いところである。また運航距離が長いので、ちょっとした船旅が体験できる。

大正内港の対岸までは直線距離にして371mである。



## 落合上渡船場

大正区千島1丁目と西成区北津守4丁目を結ぶ「落合上渡し」は、通勤や通学、買い物に利用されている。川幅は狭いが、貨物船などの大きな船の往来が多いところである。川幅（木津川）は100mである。



昭和40年ごろ

## 落合下渡船場

大正区平尾1丁目と西成区津守2丁目を結ぶ「落合下渡し」は、通勤・通学に多く利用されている。また、この付近には毎年10月～4月末までの間300羽ぐらいのユリカモメが飛来し、風物詩となっており区民の人気者になっている。川幅（木津川）は138mである。





### 千本松渡船場

大正区南恩加島1丁目と西成区南津守2丁目を結ぶ「千本松渡し」は千本松大橋（通称めがね橋）の真下を運航している。通常、橋が架かると渡船は廃止されることが多いが、徒歩や自転車で橋を渡るのは困難なため、架橋後も存続されている。川幅（木津川）は230mである。

### 船町渡船場

大正区内の鶴町1丁目と船町1丁目を結ぶ「船町渡し」は、対岸との距離が短いため、渡船の運航方法は他の渡船場と異なり、円を描いて戻ってくる航路をとっている。河幅（木津川運河）は75mである。



### 木津川渡船場

大正区船町1丁目と住之江区平林北1丁目を結ぶ「木津川渡し」は、新木津川大橋の真下を運航している。昭和30年から49年まで、カーフェリーがトラックや車・バイクなどを運び、両区をつなぐ重要な掛け橋として運航していたが、現在は、人と自転車だけの渡船である。川幅（木津川）は238mである。



昭和44年ごろ



# これからのまちづくり



## [はじめに]

大正区の特性は、木津川、尻無川、岩崎運河及び大阪湾に囲まれ、大阪の海の玄関である大阪港と深いかかわりを持ちながら発展してきた。

明治期には当時の大阪市予算の20数倍にのぼる巨費を投じて築港事業が行われ、対アジア・太平洋貿易の拠点となり、また戦後は、我が国を代表する阪神臨海工業地帯の中核的な地域として重化学工業の拠点となり、大阪さらには我が国の経済発展に先導的な役割を果たしてきた。

また、戦後48年間にわたる大正地区復興土地区画整理事業が平成6年に収束し、さらに、「北村計画」では、住宅、医療・福祉、グリーン・スポーツ施設等が誘致されるなど、21世紀に向けた都市基盤が整備されてきた。

しかし、咲洲等の埋立地への港湾機能の移転、産業構造の転換、また急激な少子・高齢化の進行など社会経済環境の変化が顕著となっている。

こうした状況を踏まえ、平成13年夏に完了した鶴浜沖埋立地の開発計画が今後の大正区のまちづくりに重要な位置を占めており、この埋立地を核として、豊富なウォーターフロントを活かし、商工業との共生を図りながら、人が住み、働き、集う、そして、新しい文化を創造する地域へと発展していくことが求められている。



## [まちづくりの目標]

今日、社会の成熟化が進行するなかで、区民ニーズがますます高度化・多様化してきている。また、国際的な経済競争の激化や高度情報化の進展、急激な少子・高齢化の進行、地球環境問題の深刻化というような社会経済環境の変化が顕著となっており、また、本格的な地方分権時代を迎えることによる変化を的確にとらえ、地域の実情に応じて主体的に立案していくことが一層重要となってきている。

区民と行政の良好なパートナーシップを確立し、区民参画・協働によるまちづくりを推進するため、行政・区民・企業等の各々の特性を踏まえ、市民公益活動との連携、民間の活力・ノウハウを活かしたまちづくりが必要となっている。



## [まちづくりのキャッチフレーズ]

本格的な少子・高齢社会、豊かな成熟社会を展望し、生涯を安心して暮らせるまち、健康で豊かに生きがいのある生活を楽しめるまち、活力のあるまちを目指し、21世紀にふさわしい「住・職・遊」のバランスのとれた魅力あるまちづくりに向けた推進活動が区民総意のもと進められており、今後、より一層推進するためにキャッチフレーズが設定されている。

## 夢のせて ちょっと目をひく 大正区

このキャッチフレーズの「ちょっと」には、「……ほかにない」、「……した評判」というように「多い・大きく・大変に・非常に」などの意味と願いが込められ、未来に向けた『夢』あるまちづくりによって、大正区は「ひとはときめき」「まちははなやぎ」「未来はかがやき」といった新しい創造につながるまちへと、一味も二味も違ってきますと決意を表している。



### [まちづくりの主要課題]

#### ●鶴浜沖埋立地の有効利用

平成13年7月に埋め立てが完了した鶴浜沖埋立地の活用は、区の活性化及び経済・文化の振興に多大な影響を及ぼすものであり、整備計画については、恵まれたウォーターフロントを活かした、人が住み、働き、集う、商工業の共生が図られるような「住・職・遊」のバランスのとれた複合的な空間を創設し、さらに、区民のニーズを取り入れた「開発計画」の早期策定が望まれる。

#### ●JR大正駅周辺の地域整備

JR大正駅は、区の玄関口であり区の活性化及びイメージアップのためにも、また、「大阪ドーム」のオープンや地下鉄「長堀鶴見緑地線」の延伸に伴い混雑状況を呈していることもあり、交通バリアフリー化の推進も考慮した駅周辺整備が望まれる。

#### ●地下鉄7号線「長堀鶴見緑地線」の鶴町延伸

地下鉄「長堀鶴見緑地線」が平成9年に「大正駅」まで延伸され、都心へのアクセスも充実してきたが、鶴浜沖埋立地や周辺地域の開発推進のためには、大量輸送の交通アクセスの充実が不可欠であり、地下鉄「大正駅」 - 「鶴町」間の早期着工が望まれる。

#### ●新橋架橋

隣接区への連絡橋として西成区へ「千本松大橋」、住之江区へ「新木津川大橋」、港区へ「なみはや大橋」が整備されている。また、区内連絡橋として大正内港に架かる（仮称）「千歳橋」が平成15年春に完成予定となっている。

この橋は災害時の避難救援道路として極めて重要な役割を担うとともに完成に伴い区内の環状道路が形成される。また、昭和山から「なみはや大橋」、「港大橋」とともに三橋が見渡すことができ、新たな港の景観として区民に親しまれることと思われる。

#### ●安心して暮らせるまち・人にやさしいまち

急速に進む高齢化に対応していくためには、だれもが安心して暮らすことのできるまち・人にやさしいまちにすることが重要となっている。

障害のある人や高齢者をはじめ、すべての人々が社会と関わりを持って地域社会で共に生活してい

く体制整備が必要であり、地域におけるケアシステムの構築や生活しやすいまちづくりを行い、必要なとき、必要な人に質の高いサービスを提供できるシステムをつくっていくことが課題となっている。

北村地区は病院、社会福祉諸施設や長期療養型施設など医療・福祉の総合的なサービス供給体制が整備されてきた。また、「大正区ふれあい福祉センター」を中心に、在宅サービスステーションも整い、在宅福祉に大きな役割を果たしている。

地域支援システムは、地域ネットワーク委員会が要援護者の実態把握やニーズを発見し、在宅支援活動を実施するなど高齢者の健康づくり、生きがいづくりへの支援活動を展開しており、さらなる充実が望まれる。

### ●防災対策の充実

地震や風水害などの災害から人々の生命と財産、社会的資産を守り、市民生活や都市活動の安全性を確保するとともに、被災時の速やかな復旧を図る体制を整備し、災害に強いまちづくりを推進していくことが重要となっている。

地域防災計画に基づき、計画的に市民生活や都市活動の安全性確保に努め、初期活動をはじめとする各種災害応急体制や消防・救急救助体制の充実を図るなど、引き続き総合的な防災体制の確立に努めるとともに、都市施設や建築物等の耐震化、不燃化の促進に努め、震災に対する安全性の高いまちづくりを進めていく必要がある。

### ●コミュニティ活動の推進

区民の地域社会における生活の比重が高まり、人々の価値観の多様化が進むなかで、地域福祉の推進、青少年の健全育成、環境の美化、防災、防犯さらには国際交流の推進、都市生活ルールの確立など地域社会に対する期待はさらに高まっている。こうしたことから、一人ひとりが生きがいを持ち、社会参加することができるよう、自主的なコミュニティ活動の支援に向けた施策を充実・強化する必要がある。地域の特性、実情に応じた活動や社会的活動に至るまでの幅広い展開と真に豊かなまちとして、区民や企業の主体的なボランティア活動をまちづくりのなかに定着させていくことが重要であり、区コミュニティ協会を中心とする社会の変化に対応した地域社会づくりとしてのコミュニティ活動が期待されている。



## [おわりに]

### 計画推進のために

まちは人間が主役である。

まちは、さまざまな人々が生きがいを求めて集まり、住み、働き、学び、遊ぶなど多彩な活動を行う場である。豊かな生活のためには、さまざまな情報を一人ひとりの生活に取り入れられる環境整備が重要であり、また、区民のわがまちに対する誇りや愛着を醸成するとともに、それらを内外へ広範囲に発信していくことが求められている。

大正区が今後進めるまちづくりは、将来を担う国際的・創造的人材の育成、保健・医療・福祉の総合的なシステムの推進、産業構造の転換、新たな都市基盤整備や住環境の整備などであり、相当の期間を要すると思われる。

まちづくりを具体的に進めていくためには、制度面・資金面などにおいてさまざまな制約が存在している。また、人々の価値観の多様化や急速に進展する少子・高齢化、国際化など社会経済情勢の変化によって、まちづくりの課題も一層高度化・多様化していくことが予想される。

さまざまな制約を克服し、このような課題に対応したまちづくりを着実に推進していくためには、行政はもとより区民をはじめ、大正区のまちづくりにかかわりを持つすべての人や組織が、そのエネルギー・アイデア・ノウハウ・資金などを結集し、総力をあげて取り組まなければならない。

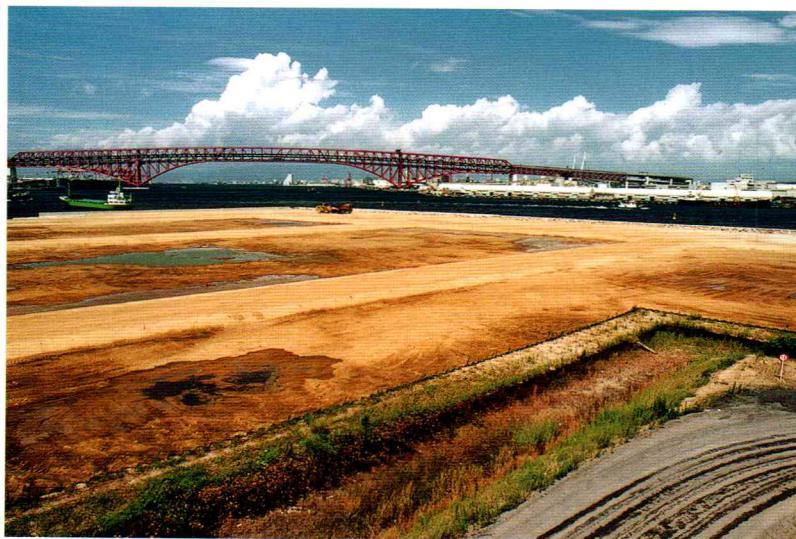
まちづくりを成功に導くために、自然環境や交通などの立地条件ではなく、地域の主体的力量、すなわち住民自身の内発力ではないかと思われる。言い換えれば、人づくりこそまちづくりを成功させる決め手であり、まちづくりは人づくりに始まり、人づくりに終わるといえる。

もとより、まちづくりは行政のみでできるものでもなく、また、一人の力でできるものでもない。肝要なことは、区役所をはじめとする行政と地域の人々の役割分担と組み合わせであるといえる。

幸いなことには、大正区は江戸期の新田開発から区の歴史が始まり、その間、幾多の高潮・暴風雨・津波などによる災害にあい、また近世においても、区の跡形もなくなるような戦災や台風による水害を経験しており、その都度この困難を乗り越えてきた人々の不屈の精神が伝統となって、次代へ「よりよいまち」を引き継いでいくとする気持ちが大変強いという区民気質を持っている。

この気質とまちづくりの目的意識を結び付け、区民をはじめ、区外から働きにくる人や企業・団体など区内で活動する人々や組織の協力を得ながら、行政との良好なパートナーシップを確立し、まちづくりを進めていくことが、大正区のまちづくり推進の最も近道といえる。また、今後の重要課題でもある。

以上の観点に立ち、大正区のまちづくりにおいて、ハード面の充実はいうまでもなく、人づくりなどのソフト面での取り組み強化もあわせて、人間中心の視点、国際的・広域的視点、個性あるまちづくりの視点など、総合的な視点のもと長期的な展望のうえに立ったまちづくりの推進が期待される。



鶴浜沖埋立地

# 区制施行70周年記念事業

◆記念式典・タイムカプセル・記念植樹・祝賀会

—平成14年10月1日 実施

区制施行70周年を記念した式典を10月1日、大正区コミュニティセンター3階ホールにおいて、区内各種団体役員、区政協力会会員、主催者など、295名の多数の出席のもとに開催した。大阪市消防音楽隊の記念演奏に始まり、市歌斉唱、宮城実行委員長ならびに池上大正区長のあいさつのあと、区政の推進に尽力された方々に表彰状・感謝状を授与、来賓として、磯村大阪市長が大正区の新田開発から臨海工業地帯として発展したことなどを交えた祝辞があり、続いて、区選出議員代表の祝辞、来賓紹介、祝電披露と続き、式典の締めくくりとして、30



年後の100周年に開封する“タイムカプセル”に、区内の幼稚園、小・中学生や有志の方々から寄せられた多くの作品《絵画・作文等》が収蔵され、泉尾北小学校6年生の男女2名により最後の作品が収められ出席者から大きな拍手があつて30年の眠りについた。

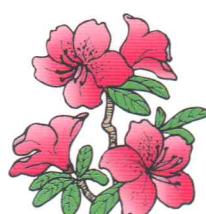
このあと参加者は、記念植樹をする千島公園と祝賀会場の区民ホールへ移動、記念植樹は、70周年と区の花にちなみ、樹齢70年の「つつじ」を千島公園せせらぎ広場に植樹した。祝賀会は、大正中央中学校・大正北中学校的吹奏楽部の生徒90名による合同記念大演奏に始まり、

寒竹副実行委員長の開会のことば、高木大正警察署長の乾杯の発声により祝宴を開始した。この席に、大正区出身の女優“萬田久子さん”を招いて『大正区の思い出を語る』と題してのトークショー、そしてフルートとバイオリン演奏もあいまって和やかな雰囲気のうちに宴たけなわとなり、久保大正消防署長の万歳三唱、久保副実行委員長の閉会のことばで祝賀会を終宴した。



当  
日  
は  
あ  
い  
に  
く  
朝  
か  
ら  
強

い雨が降り、祝賀会場や記念植樹会場へは、傘をさしての移動となつて大変であったが、参加いただいた方々の理解と協力により式典・記念植樹・祝賀会ともスムーズに流れ、70周年にふさわしい記念行事となった。



### ◆連合対抗玉入れ

—平成14年10月20日 実施

区制施行70周年を記念して、第28回大正区民まつりのプログラムの一つとして、まつりの広場において連合対抗玉入れ競技を実施した。

各町会連合ごとに選出された男女（小学生30名、大人20名）により、小学生の部と一般の部に分かれ競技を開始。まず、小学生の部を行い、次に一般の部を実施、その合計数をもって順位を決めた。優勝は鶴町町会連合、準優勝は中泉尾町会連合、3位に北恩加島町会連合が入り各賞を受賞した。4位以下の町会連合には、参加賞が贈られ和やかなうちにも対抗意識が芽生え、地域の老若男女の絆が一層深まるゲームとなった。参加者から、“おもしろかった”“楽しかった”との声も聞かれ大変好評を得て大いに盛り上がった。



### ◆区民ふれあいウォーキング

—平成14年11月10日 実施



区内の著名な施設等をめぐり、家族や友人が、ひとときのふれあいの場となることを願い「区民ふれあいウォーキング」を開催した。

北コースと南コースを設定し、コースの中にポイントを設け、クイズやゲートボールなどを行い、ゴール地点では抽選会を実施するなど趣向をこらした記念イベントとして、97組、232名の参加があった。ちなみに参加者の最高齢者は91歳の方で、元気に約2時間のコースを歩かれた。

「区内を歩く」という事業は初めての試みであったため、主催者側のPR方法やポイントでの催しのあり方など、反省材料を残しつつ、参加者からは「来年も開催してほしい」「来年は反対のコースを歩いてみたい」など、期待の声もあり好評を得た記念事業となった。

### ◆記念誌の発行

—平成15年3月発行

区制施行70周年記念事業の締めくくりとして、この10年間の区勢の動きを中心として、大正区の生い立ちや区内の社寺、各種団体の紹介、さらには記念事業の記録、これからの大正区のまちづくりなど、できるだけ写真を多く取り入れ、読みやすく見やすい冊子を発行した。

# 各種団体等の紹介

## 1. 委員関係

### 大正区選挙管理委員会

設立年月日 昭和21年11月22日

目的 地方自治法の定めるところにより、選挙の民主化と公正を確保するため、市区町村に選挙に関する独立の執行機関として設置。

活動状況 法令の定めるところにより、合議制の執行機関として、選挙に関する事務及び選挙に関する事務の公正な執行管理、並びに明るい選挙の推進のための各種啓発活動の執行管理にあたっている。

歴代委員長名

田 中 篠太郎	昭和21.11～昭和28.9	片 岡 茂 吉	昭和28.9～昭和42.9
村 橋 太 郎	昭和42.9～昭和63.3	渡 邊 利 和	昭和63.3～平成4.3
鈴 木 正 朗	平成4.3～平成5.4	小 林 正 義	平成5.4～平成6.3
川 崎 愛 子	平成6.4～平成7.5	中 道 良 明	平成7.5～平成8.3
大 城 真 榮	平成8.3～平成9.3	板 谷 勝 仁	平成9.3～平成10.3
藤 井 富 夫	平成10.3～平成11.3	川 崎 愛 子	平成11.4～平成12.3
板 谷 勝 仁	平成12.3～平成13.3	振 津 泰 弘	平成13.3～平成14.3
藤 木 保 夫	平成14.3～現在		

## 2. 民生・福祉・ボランティア活動関係

### 社会福祉法人 大阪市大正区社会福祉協議会

設立年月日 昭和26年2月14日 法人設立 平成4年6月1日

目的 大正区における社会福祉事業の効率的運営と組織的活動を促進し、もって地域社会福祉の増進を図る。

活動状況 大正区社会福祉協議会では、高齢者や障害をお持ちの方が、住みなれた地域で安心して、いきいきと、そして心豊かに暮らせるまちづくりの実現に向けて、次のような事業を積極的に実施している。



- ◎区在宅サービスセンター（ふれあい福祉センター）の運営
- 在宅介護支援センター事業（総合相談窓口）の実施
- 通所介護事業（介護保険にかかるデイサービス事業）の実施
- 要介護認定訪問調査事業の実施
- 食事サービス事業（生活支援型）の実施
- 居宅介護支援事業（介護保険にかかるケアプラン作成など）の実施など
- ◎ボランティアビューローの運営
  - ボランティア活動の啓発と参加促進（ボランティアの開拓、養成）
  - ボランティア活動の支援（登録、相談及び需給調整）
  - ボランティアビューロー分室の運営など
- ◎高齢者福祉対策事業の実施

- 高齢者福祉月間事業の推進
- 高齢者食事サービス（ふれあい型）、友愛訪問活動等在宅福祉支援事業の推進
- ◎障害者福祉対策事業の推進
  - 障害者関係団体との活動連携
- ◎青少年福祉対策事業の推進
  - 青少年福祉団体との活動連携
  - 青少年の健全育成及び非行防止活動の推進
- ◎地域福祉の推進事業
  - 世代間交流等を目的とした「ふれあいフェスティバル大正」の開催
  - 小地域ネットワーク活動推進事業の実施
  - 在宅福祉支援のための、車いす貸し出し及び布団乾燥サービス事業の推進など
- ◎広報活動及び情報の収集
  - 区民の理解と協力を得るため広報紙の発行
  - 社会福祉全般についての情報収集
- ◎その他
  - 地域社会福祉協議会の育成・支援
  - 共同募金事業への協力
  - 区内各種団体への事業助成と協力など

---

#### 歴代会長名

朝野米吉	昭和26.2～昭和28.7	田中簾兵衛	昭和28.8～昭和42.6
三浦源太郎	昭和42.7～昭和45.5	村森道藏	昭和45.6～昭和55.6
宮城清市	昭和55.7～平成14.3	久保末喜	平成14.4～現在

### 大正区民生委員協議会

設立年月日 昭和23年7月29日（民生委員法施行時）

目 的 民生委員法に基づき、福祉事務所その他の関係機関の業務に対する協力機関として位置付けられ、地域の社会福祉活動を推進するとともに、相談指導により地域住民の生活支援に努める。

活動状況 民生委員の職務として、要援護者の相談指導のみならず、高齢者・障害者・児童福祉についても、その支援活動を行っている。

特に最近は、児童委員としての役割の重要性も増し、平成6年に主任児童委員制度が発足、協力して地域の児童虐待等の問題にも取り組んでいる。

また、協議会として地域社会福祉団体とともに、地域社会活動の推進役として中心的役割を果たしている。

---

#### 歴代会長名

朝野米吉	昭和23.7～昭和28.11	田中簾兵衛	昭和28.11～昭和42.6
三浦源太郎	昭和42.7～昭和45.3	村森道藏	昭和45.4～昭和55.6
加古三郎	昭和55.7～昭和55.11	山本秀男	昭和55.12～昭和61.11
後藤利幸	昭和61.12～平成7.11	中道良明	平成7.12～平成13.11
浅野八郎	平成13.12～現在		

## 大正区高齢者サービス調整チーム・地域ネットワーク委員会（高齢者地域支援システム）

設立年月日 高齢者サービス調整チーム 平成3年7月3日

地域ネットワーク委員会 平成3年11月14日



目的 ノーマライゼイションの理念のもとに、保健・医療・福祉等の関係機関、団体、地域の連携を図り高齢者やその家族が抱える複雑、多岐にわたる問題を解決し、保健・医療・福祉等の各種サービスが総合的、効果的に提供できるようにするとともに、地域社会におけるネットワークづくりを推進することにより、生活支援を行う。

活動状況 地域ネットワーク委員会は全10地域に設立され、高齢者実態調査等によるニーズの発見、健康生きがいづくり、近隣の助け合いなど地域の高齢者支援の核となるとともに、高齢者サービス調整チームへの意見反映を行うなど幅広い活動を展開している。  
高齢者サービス調整チームにおいては、各種団体の実務者により区における高齢者問題の把握・解決に向けての検討・情報交換等を行い、コミュニティケアの推進を図っている。また、各種団体の代表者により区内の高齢社会の実態把握、課題の集約を行うとともに必要に応じて大阪市高齢者施策推進委員会へ高齢者の生活支援について提言し、行政施策への反映に努めている。

歴代座長名

宮城清市 平成3.7～平成8.6 久保末喜 平成8.7～平成14.3

池上良夫 平成14.4～現在

## 大正地区保護司会

創設年月日 昭和27年8月

目的 大正区における更生保護事業の運営とその充実・発展を図る。

活動状況 年4回の研修会（大阪保護観察所の観察官が指導）を開催のほか、定期的に理事会を開催し、会の活動・運営について協議している。  
また、毎年7月に「社会を明るくする運動」を実施している。

歴代会長名

朝野米吉 昭和24.7～昭和27.8（大阪西少年保護司、後大正少年保護司）

三浦源太郎 昭和24.7～昭和27.8（大正成人保護司）

三浦源太郎 昭和27.8～昭和45.2 田中光之助 昭和45.3～昭和46.3

村杏道蔵 昭和46.4～昭和48.4 宮城清市 昭和48.5～昭和61.4

藤井隆司 昭和61.5～平成3.4 寒竹米一 平成3.5～平成9.4

久高幸進 平成9.5～平成11.4 久保末喜 平成11.5～平成12.4

植田禎泰 平成12.5～平成14.5 富野多計男 平成14.5～現在

## 大正区更生保護婦人会

創設年月日 昭和31年4月

目的 女性の立場から、更生保護活動を図るとともに、更生保護婦人会活動のより一層の充実を目指す。

活動状況 年1回の総会と定期的な幹事会の開催のほか、毎年7月の「社会を明るくする運動」期間中の「愛の募金」活動や更生保護施設への訪問などを行っている。

### 歴代会長名

金澤 ヨシ 昭和31.4～昭和41.3	山北 ソノ 昭和41.4～昭和47.3
木村 清子 昭和47.4～昭和49.3	西川 貴枝 昭和49.4～昭和54.3
高橋 暉子 昭和54.4～昭和62.3	西野 節子 昭和62.4～現在

### 大阪市遺族会大正区支部

創設年月日 昭和22年4月

目的 戦没者のめい福を祈願し、会員相互の親睦と連絡調整を図り、府・市遺族会の行う事業に協力。

活動状況 年間行事として、戦没者慰霊祭、友の会旅行、役員会（随時）のほか、府・市遺族会の行う事業に協力、また、区民まつりなど各種コミュニティ行事に参加している。



### 歴代会長名

田中末吉 昭和22.4～昭和26.11	村田利一 昭和26.12～昭和37.3
山北与助 昭和37.4～昭和43.3	上中佐太郎 昭和43.4～昭和55.3
原アサミ 昭和55.4～現在	

### 大正区母と子の共励会

創設年月日 昭和26年3月

目的 相互扶助の精神に立脚し、未亡人世帯が自立更生できるよう援助し、会員相互の親睦を図り、生活の向上と子女の健やかな育成と会員の教養向上に資するをもって目的とする。

活動状況 大阪市や各種団体の援助を受け、売店事業や区民まつり、ふれあいフェスティバルへのバザー参加等で活動の財源確保に努め、事業面では、市共励会が開催する各種講習会、研修会など母子寡婦福祉事業に積極的に参加するとともに、区独自では手芸教室、野外活動、ボウリング大会等、活発な活動を進めている。

### 歴代会長名

金澤ヨシ 昭和26.3～昭和28.3	遠田あい 昭和28.4～昭和37.3
反田千代子 昭和37.4～昭和60.3	貴志あき菜 昭和60.4～平成9.3
畠 ひろ子 平成9.4～現在	

### 大正区老人クラブ連合会

設立年月日 昭和32年6月1日

目的 老人の知識経験を生かし活力ある長寿社会を築き、組織を通じての諸活動により、社会福祉の増進に寄与する。

活動状況 〈教養活動〉

老人大学、いちょう学園、指導者研修会、高齢者婦人学級、コーラス、文化祭  
〈健康増進活動〉

ゲートボール大会、ペタンク、体力づくり講習、グラウンドゴルフ、歩こう会、三世代普及振興

〈社会活動〉

機関紙、区老連旅行、寝たきり老人訪問、友愛募金、区内最高齢者訪問、老人福祉月間行事、囲碁将棋大会、区民まつり協賛（おとしより趣味の作品展）「社会奉仕の日」の

## 清掃活動、区民ギャラリー展、交通安全講習、大正区老連まつり、施設訪問

### 歴代会長名

福 島 源之助 昭和32.6～昭和36.3	竹 内 浅次郎 昭和36.4～昭和45.4
宮 下 末 蔵 昭和45.4～昭和55.3	佐 藤 順 治 昭和55.3～昭和63.3
佐 藤 勇 昭和63.3～平成10.3	植 田 正 雄 平成10.3～現在

### 大正区身体障害者団体協議会

設立年月日 昭和47年10月

目 的 私たちは、各々の身体に受けた障害によって生ずるところの精神的・肉体的な不自由（バリア）を克服し、自由活発な活動を通して、社会と共に生きる（ノーマライゼーション）、そしてお互いに友として、仲間として、よりよい人生を送ること（自立）を目指し、本会の目的とする。

活動状況 先にかかげた目的を達成するために、次のような活動をしている。

#### 〈組織活動〉

年1回の総会と月例役員会・年2回の区身協だよりの発行・大阪市身体障害者団体協議会の事業への積極的参加・12月の障害者の日や日本身体障害者団体連合会の主催する収益事業を通しての区民の皆さんへ障害者の啓発活動、親睦旅行

#### 〈社会活動〉

毎年、区民まつりへの参加・人にやさしい街づくり（大正区公共交通を考える会活動）・マッサージ奉仕

#### 〈学習活動〉

保健や福祉、支援費制度に関する学習会・手話教室・ワープロ教室・カラオケ教室など、これらの活動を通して、会員相互の自立と社会参加を果たすために、みんなで一生懸命にがんばっている。

### 歴代会長名

松 浦 敬 介 昭和47.10～昭和53.3	浜 田 進 昭和53.3～昭和62.3
横 山 勝 己 昭和62.4～平成7.3	鈴 木 史 郎 平成7.4～平成9.3
金 城 豊 秀 平成9.3～現在	

### 大阪市知的障害者育成会大正区支部（大正区手をつなぐ親の会）

設立年月日 平成3年4月23日

目 的 知的障害者(児)をもつ保護者が相互に親睦を深め、励まし合うとともに、関係機関との連絡を密にして、知的障害者の諸施設の新增設や療育制度・福祉の充実促進の運動を行うことを目的とする。

活動状況 ①地域福祉作業所の拡充強化

②療育指導・相談会の開催

③施設の新增設と充実強化運動

④知的障害者の就労支援と職場開拓の促進運動

⑥会員相互の親睦と激励

⑧情報・調査・資料の収集



⑤療育諸制度の拡充強化運動

⑦知的障害者(児)のためのレクリエーション

⑨大阪市知的障害者育成会の支部としての諸活動

### 現会長

田 頭 仁 枝 平成3.4～現在

## 大阪市傷痍軍人会大正区支部

設立年月日 昭和27年9月1日

目的 傷痍軍人相互の親睦と身体の障害を克服して精神の練磨を心がけ、名誉と誇りを持って、日本の繁栄と世界平和のため寄与すること。

活動状況 日本傷痍軍人会、大阪府傷痍軍人会、大阪市傷痍軍人会等、上部団体と団結を一層強化して、会員相互の親睦と福祉の増進に最善を尽くし、行政の協力と区福祉、区社協等、友宜団体と協調、傷痍軍人会、傷痍軍人妻の会の運営と自己研鑽に努力している。

歴代会長名

藤原 滋 昭和27.9～昭和36.3 辻 栄重 昭和37.7～昭和63.3  
兼田 久志 昭和63.4～平成7.3 松浦 敬介 平成7.5～平成11.3  
泉 清有 平成11.5～平成13.3 小山 實 平成13.4～現在

## 大阪市傷痍軍人妻の会大正区支部

設立年月日 昭和37年7月1日

目的 日本傷痍軍人妻の会、大阪府傷痍軍人妻の会、大阪市傷痍軍人妻の会と団結を一層強化して、福祉増進に最善を尽くし、また、傷痍軍人の夫を助け、国家、社会の向上と世界平和の確立に協力。

活動状況 傷痍軍人会と表裏一体となり、共に助け合い、励まし合って、年次総会、研修会、見学会、手芸教室等を開催、諸活動を通じて、自己研鑽につとめ、傷痍軍人会と傷痍軍人妻の会の発展と健全なる社会、家庭環境づくりに努力している。

歴代会長名

谷早苗 昭和37.7～昭和43.3 廣瀬 ハナ子 昭和43.3～現在

## 大阪大正ライオンズクラブ

創設年月日 昭和37年11月6日

目的 社会奉仕

スローガン：自由を守り、知性を重んじ、我々の国の安全をはかる。

モットー：我々は奉仕する。

ライオンズの誓い：我々は知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する。

活動状況 区内寝たきり老人へ歳末慰問品贈呈

区内新成人へ記念品贈呈

日本ボーイスカウト大阪第126団の育成援護

献血奉仕、国際平和ポスターコンテスト

区内小学校身障児バスツアー、昭和山へ桜植樹

『アゼリア大正』へ絵画「四季の詩」贈呈

ふれあい福祉センターへ軽ワゴン車贈呈

大正通街路清掃奉仕（ボーイスカウト協賛）

その他、災害援助、人道主義的奉仕活動



歴代会長名

関野省治 昭和37.～昭和39.

浅野藤太郎 昭和39.～昭和40.

神前良治 昭和40.～昭和41.

竹下重義 昭和41.～昭和42.

山 下 与 助	昭和42.～昭和43.	山 本 嘉 �藏	昭和43.～昭和44.
森 本 修 三	昭和44.～昭和45.	北村 智治 (嘉章)	昭和45.～昭和46.
松 尾 圭太郎	昭和46.～昭和47.	大 谷 秀太郎	昭和47.～昭和48.
福 地 直次郎	昭和48.～昭和49.	井 上 博 造	昭和49.～昭和50.
津 田 義 三	昭和50.～昭和51.	向 井 守 三	昭和51.～昭和52.
横 山 嘉 幸	昭和52.～昭和53.	橋 本 勇	昭和53.～昭和54.
湯 浅 勇	昭和54.～昭和55.	松 尾 澄 正	昭和55.～昭和56.
丹 井 貞 一	昭和56.～昭和57.	吉 田 平 八	昭和57.～昭和58.
吉 田 繁 信	昭和58.～昭和59.	中 道 良 明	昭和59.～昭和60.
三 好 智 一	昭和60.～昭和61.	中 島 貞 治	昭和61.～昭和62.
秦 巍	昭和62.～昭和63.	名 越 久	昭和63.～平成元.
秦 巍	平成元.～平成 2 .	久 保 清	平成 2 .～平成 3 .
山 本 光 雄	平成 3 .～平成 4 .	武 田 悅	平成 4 .～平成 5 .
佐 川 重 徳	平成 5 .～平成 6 .	三 好 嘉寿磨	平成 6 .～平成 7 .
真 鍋 茂 夫	平成 7 .～平成 8 .	井 藤 信太郎	平成 8 .～平成 9 .
秋 和 勉	平成 9 .～平成10.	福 田 和 征	平成10.～平成11.
樋 口 徳 光	平成11.～平成12.	福 本 清 彦	平成12.～平成13.
森 田 栄 作	平成13.～平成14.	松 岡 檢 二	平成14.～現在

### 財団法人 皓養社

設立年月日 昭和21年10月11日

目的 福祉、厚生、感恩報謝の高揚に関する事業の助成並びにこれが顕現するよう図るのを目的とする。

活動状況 ○大正区内の経済的に恵まれない高校生に、1学年16名合計48名に奨学金を支給  
○大阪府下の母子家庭の高校生の内、約500名に奨学金を支給  
○福祉団体、数件に助成

歴代理事長名

中 納 久次郎 昭和21.10～昭和32.10 中 納 千 代 昭和32.10～昭和46.1  
中 納 久 昭 昭和46.1～現在

### 財団法人 大井伊助積善会

設立年月日 昭和16年11月17日

目的 児童福祉・青少年補導並びに社会の文化厚生、その他有益と認める事業の助成となす。

活動状況 各種社会福祉法人等への事業協賛。

歴代理事長名

大 井 伊 助 昭和16.11～昭和19.6 大 井 文右エ門 昭和19.6～昭和39.6  
大 井 正 一 昭和39.6～昭和57.8 大 井 義 夫 昭和57.12～現在

### 3. 地域振興・コミュニティ関係

#### 大正区地域振興会・赤十字奉仕団

創設年月日 昭和24年4月1日 赤十字奉仕団創設  
昭和50年6月1日 地域振興会発足

目的	昭和24年に結成された赤十字奉仕団は、災害救助などの活動に取り組む一方で、ごみの収集日など、行政からの連絡を各世帯に伝える役割も果たしていた。 都市化が進むなか、コミュニティづくりが一層求められるようになり、昭和50年、コミュニティづくり、市・区政への協力、日本赤十字事業への協力を活動の3つの柱とする地域振興会が、赤十字奉仕団と構成員や役割を同じくする表裏一体の組織として発足した。
活動状況	各種コミュニティ行事への参加協力、市広報ビラなどの区民への配布、回覧をはじめ、震災訓練や災害発生時の救護活動などに積極的に取り組んでいる。 また、日本赤十字社の社資募集や各種事業にも協力している。

#### 歴代会長名

朝野米吉 昭和24.4～昭和28.7 駒井英二 昭和28.8～昭和30.6  
浅野藤太郎 昭和30.8～昭和46.5 原南海男 昭和46.6～昭和49.5  
宮城清市 昭和49.6～平成12.3 寒竹米一 平成12.4～現在

#### 大正区地域振興会地域防災リーダー

創設年月日 平成8年6月

目的	災害が発生したとき組織的に初期の防災活動を行うことで、地震などの災害による被害を軽減し、地域の安全を守る役割を担う。
活動状況	非常災害時における災害救助活動を行う中心的存在として日ごろから、 <ul style="list-style-type: none"><li>・地域ぐるみでの自主訓練の実施</li><li>・大正区震災訓練などの各防災機関が実施する訓練への参加</li><li>・防災機器などの点検・管理</li><li>・地域防災リーダー研修会への参加など各種防災事業に取り組んでおり、地域防災リーダー自らの資質の向上のみを図るだけでなく、非常災害時に地域防災リーダーとして地域住民が有機的に連携を取り行動でき、迅速かつ効果的に活動できる体制づくりを目指している。</li></ul>

#### 財団法人 大正区コミュニティ協会

設立年月日 昭和60年12月25日

目的	コミュニティ活動及びコミュニティ施設の運営を通じて、心ふれあう連帯感のあるまちづくりを推進し、区民の健康増進と文化の振興並びに地域社会の発展に寄与する。
----	--

活動状況	大阪市立大正会館の管理運営を始め、当区の一大イベントである区民まつり、区民文化のつどい、こども文化祭を開催するとともに、各種講習会等のコミュニティ育成事業の実施、またコミュニティに関する調査研究及び普及啓発を行っている。
------	--

平成14年7月1日より『区体育厚生協会』、『区体育指導委員協議会』、『区青少年指導



員連絡協議会』、『区子ども会育成連合協議会』の4団体の事務局がコミュニティ協会に移管され、団体事務局の支援業務を行うとともに、各団体が開催する各種の大会や講演会、会合等に事務局として参加し、区役所との連絡調整を行っている。

現理事長

宮城清市 昭和60.12～現在

#### 4. 社会教育・女性・青少年活動関係

##### 大正区人権啓発推進協議会

設立年月日 昭和53年11月24日

目的 基本人権の尊重を理念とする憲法の趣旨に沿い、区民の人権意識の高揚を図り、もって人権尊重の明るいまちづくりを目指している。

活動状況 人権・憲法週間には街頭において、啓発活動を実施している。また、広く区民を対象に「人権を考える区民のつどい」や区内各種団体の役員、会員の方々を対象に人権にかかる研修会を開催。また、浪速・西・港・大正区が連携し、毎年「人権展」・「人・愛・ふれあいプラザ」を共催している。  
人権問題は、地域に根ざした取り組みが重要であり、そのためのリーダー養成を図るため、毎年人権啓発指導者養成講座も開催している。

歴代会長名

村杏道蔵 昭和53.11～昭和55.3 宮城清市 昭和55.4～平成8.3  
浅野行雄 平成8.4～平成11.3 寒竹米一 平成11.4～現在

##### 大正区地域女性団体協議会

創設年月日 昭和26年12月1日

目的 区内の地域女性会の相互の連絡と、その健全な発展を図り、併せて女性の教養・生活・地位の向上に寄与する。

活動状況 毎年女性学級(区単位11学級)を始め、女性のつどいの開催や各種研修会への参加など、女性の教養と地位の向上のための学習活動を行っている。  
また、住みよい社会をめざし、人権問題や地域と密着した活動も行い、コミュニティ活動への参加や清掃活動、ボランティア活動としてのふれあいフェスティバル、ふれあい老人食事サービス活動など、地域社会の福祉の向上に取り組んでいる。



歴代会長名

山北ソノ 昭和26.12～昭和46.3 高橋瞳子 昭和46.4～平成4.3  
川崎愛子 平成4.4～現在

##### 大正区PTA協議会

創設年月日 昭和24年10月

目的 区内各単位PTAの連絡を密にし、健全な発展を図るとともに市PTA協議会の目的及び方針に則り、区内の教育振興に努めている。

## 活動状況

毎年、常置委員会（成人、広報、校外、学級、人権）研修会及び指導者研究集会を開催し、PTA活動の情報交換、PTA本来の活動のあり方など研究討議を行っているほか、市PTAの行う各種研修会や講演会に参加、また単位PTA間の親睦を図るために、ソフトボール大会、バレーボール大会を開催。区民まつりの協賛事業として「親と子どものど自慢」も開催している。



## 歴代会長名

吉 原 喜代蔵	昭和26.6～昭和27.5	中 川 武之祐	昭和27.6～昭和28.5
伊 藤 鉄 造	昭和28.6～昭和29.5	中 川 武之祐	昭和29.6～昭和32.5
井 奥 実	昭和32.6～昭和33.5	中 川 武之祐	昭和33.6～昭和34.5
原 南海男	昭和34.6～昭和35.5	竹 内 良 和	昭和35.6～昭和36.5
羽 山 秀 雄	昭和36.6～昭和37.5	中 次 政 吉	昭和37.6～昭和38.5
浅 野 行 雄	昭和38.6～昭和39.5	岩 橋 義 夫	昭和39.6～昭和40.5
井 上 博 造	昭和40.6～昭和42.5	三 浦 正 路	昭和42.6～昭和43.5
岡 田 稔	昭和43.6～昭和44.5	宮 城 龍 児	昭和44.6～昭和45.5
岸 本 文 一	昭和45.6～昭和46.5	佐 野 覚	昭和46.6～昭和47.5
余 島 市太郎	昭和47.6～昭和48.5	豊 田 博 文	昭和48.6～昭和49.5
三 浦 正 行	昭和49.6～昭和50.5	岡 崎 信 義	昭和50.6～昭和51.5
片 山 亮三郎	昭和51.6～昭和52.5	岡 本 信 次	昭和52.6～昭和53.5
広瀬 彰	昭和53.6～昭和54.5	浅 野 八 郎	昭和54.6～昭和55.5
余 島 市太郎	昭和55.6～昭和56.5	田 口 幸 男	昭和56.6～昭和57.5
菊 野 隆 宏	昭和57.6～昭和58.5	寺 口 恵	昭和58.6～昭和59.5
福 山 義 照	昭和59.6～昭和60.5	堀 口 忠	昭和60.6～昭和61.5
八 木 清	昭和61.6～昭和62.5	西 岡 友 一	昭和62.6～昭和63.5
福 山 義 照	昭和63.6～平成元年5	江 尻 幸 則	平成元年6～平成2.5
中 村 幹 太	平成2.6～平成3.5	新 子 文 雄	平成3.6～平成4.5
松 林 豊 和	平成4.6～平成5.5	吉 川 健 二	平成5.6～平成6.5
金 山 光 夫	平成6.6～平成7.5	山 本 文 雄	平成7.6～平成8.5
田 島 一 弘	平成8.6～平成9.5	上 杉 龍 彦	平成9.6～平成10.5
川 上 満	平成10.6～平成11.5	田 村 幸 二	平成11.6～平成12.5
上 村 一 夫	平成12.6～平成13.5	北 村 勝 康	平成13.6～平成14.5
福 田 守	平成14.6～現在		

## 大正区PTA友の会（OB会）

創設年月日 平成8年2月

目的 大正区の教育振興に寄与するとともに、会員相互の旧交と親睦を図る。

活動状況 毎年1回総会を開催し、情報交換や親睦を図っている。また、講演会を開催し、青少年問題にも積極的に取り組んでいる。

## 歴代会長名

浅 野 行 雄 平成8.2～平成10.2 中 道 良 明 平成10.2～現在

## 大正区子ども会育成連合協議会

創設年月日 昭和35年6月

目 的 区内子ども会及び育成者・指導者の連絡協調により子ども会活動を振興し、子どもたちの健全育成を図る。

活動状況 子どもたちの健全育成のため、区民まつりで『ミニ運動会』、『ミニSL』、『フワフワコーナー』、『バザー』をはじめ、こども文化祭や、キックベースボール大会、わんぱく相撲大会の開催のほか、成人の日のつどいの運営に協力している。さらに育成者の研修会や将来の指導者の養成のためにジュニアリーダーの研修にも取り組んでいる。

また、平成14年度より『区子連だより』を発行しており、今後定期的に発行する。



歴代会長名

児玉 勝太郎 昭和35.6～昭和44.3 梶林 侃 昭和44.4～昭和45.3

児玉 勝太郎 昭和45.4～昭和49.3 竹中 広美 昭和49.4～昭和53.3

伊藤 義幸 昭和53.4～昭和55.3 鹿島 孝 昭和55.4～平成2.4

中山 良明 平成2.4～現在

## 大正区青少年指導員連絡協議会

創設年月日 昭和33年

目 的 青少年の健全育成及び青少年活動の推進を図り、指導員相互の連絡調整と資質の向上をめざす。

活動状況 リーダースクール「プログラムスキル」・中学生親善スポーツ大会・区民まつり「ウルトラクイズ大会」・成人の日のつどい・ユースリーダー育成・毎月の指導ルーム（夜間重点の巡視）などの活動を行うほか、大阪市青少年指導員連絡協議会への活動参画がある。

また、各校下ではそれぞれの自主活動をはじめ、地域の各種団体が実施する事業にも協力している。

歴代会長名

桜井 良太郎 昭和35.4～昭和37.3 武川 信唯 昭和37.4～昭和39.3

梶林 侃 昭和39.4～昭和41.3 名塩 亮三 昭和41.4～昭和43.3

梶林 侃 昭和43.4～昭和48.3 植西 弘志 昭和48.4～昭和49.3

福居 義光 昭和49.4～昭和54.3 谷 博 昭和54.4～平成12.3

藤田 和仁 平成12.4～現在

## 大正区青少年育成推進会議

創設年月日 平成10年9月11日

目 的 青少年の育成を図るために、区役所、関係機関、幼稚園、小・中・高等学校、青少年団体、地域諸団体による広範な区民の参加のもと、家庭、学校、地域が一丸となって各種事業を総合的かつ効果的に推進し、もって「大阪市児童育成計画（なにわっ子すくすくプラン）」の目標に資する。

活動状況 幹事会が中心となって、青少年の健全育成に向けて、情報交換や非行防止について討議を行っている。

これまでの主な取組み事業として、「子ども110番の家」事業、「ふれあいゲートボール」

事業、「声かけ通報運動」事業がある。

歴代委員名

宮 城 清 市 平成10.9～平成14.5 久 保 末 喜 平成14.6～現在

**大正区生涯学習推進区民会議**

設立年月日 平成12年10月

目 的 区内各種団体の代表者で構成され、大正区における生涯学習事業を区民参加により総合的・計画的に推進することを目的とする。

活動状況 年1回の総会と構成員を対象とした研修会を実施。また、「生涯学習フェスティバル」等の行事に協賛している。

現 会 長

久 保 末 喜 平成12.10～現在

**大阪市生涯学習推進員大正区連絡会**

設立年月日 平成10年 4月

目 的 各小学校で推薦された「生涯学習推進員」で構成し、大正区における生涯学習の振興を図ることを目的とする。

活動状況 定期的に連絡会を開催し、生涯学習ルーム間の情報交換や企画・運営にあたるなど、地域の学習の活性化を図っている。

また、毎年11月に開催している「生涯学習フェスティバル」を主催している。

現 代 表

野 間 知 君 平成10.4～現在

## 5. 体育関係

**大正区体育厚生協会**

創設年月日 昭和25年 4月

目 的 会員相互の連絡提携により、区民の体育振興及びレクリエーションの普及奨励を図り、健全明朗な地域社会の発展に寄与する。

活動状況 区民レクリエーション大会（区民まつりに併催）、区民ハイキングを実施するほか、市長杯大会の区予選会として、軟式野球、卓球、ソフトテニスなどの区長杯大会を開催している。

また、各地域で体育指導委員のもとに開催している「健康クラブ教室」をはじめ、区内の各種スポーツ団体が行う事業を後援し、スポーツの振興とレクリエーションの普及・奨励を図るほか、健康づくり、豊かな地域のコミュニティづくりをめざして活動している。

歴代会長名

中 川 武之祐 昭和25.4～昭和36. 駒 井 英 二 昭和36.～ 昭和44.

神 前 良 治 昭和44.～ 昭和48. 原 南海男 昭和48.～昭和49.5

宮 城 清 市 昭和49.6～平成8.3 寒 竹 米 一 平成8.4～現在

## 大正区体育指導委員協議会

創設年月日 昭和53年7月1日

目 的 体育指導委員相互の連絡を密にし、体育厚生協会と協力、その活動の活発化を図るとともに、区民のスポーツ・レクリエーションの振興に寄与する。

活動状況 区内11カ所の健康クラブ教室の運営、区内府立高校における体育施設開放事業の運営管理、ソフトバレーボール大会の開催、区民まつり「ミニ運動会」の運営などのほか、区民ハイキングやスポーツ大会など、体育厚生協会が行う諸事業への協力等、区民のスポーツの振興と健康増進に寄与しているほか、地域の各種団体が実施している事業にも協力している。

また、大阪市体育指導委員協議会への活動参画はもとより、「総合的地域スポーツクラブ」の立ち上げに向け、鋭意、調整を進めている。

歴代会長名

石 部 重 雄 昭和53.7～平成2.3 鹿 島 孝 平成2.4～平成6.3  
鶴 田 三郎 平成6.4～平成12.3 中 山 省 治 平成12.4～現在

## 6. 保健・衛生関係

### 大正保健センター推進協議会

設立年月日 昭和22年9月5日

目 的 平成12年4月の機構改革に伴い、大正保健所運営協議会から大正保健センター推進協議会となる。当協議会は、地域住民の健康保持、増進を図るため、保健センター事業の運営、推進に関して委員によって検討、協議を目的とする。

活動状況 基本健康審査、胃・大腸がん、子宮・乳がん、肺がん、骨量検査、結核健康診断による疾病の早期発見、早期治療のための検診事業の実施。生活習慣改善指導教室、地区健康講座、食生活改善等生活習慣病予防、健康保持に関する各種健康教室の開設。快適な生活環境を目指すために、食品環境衛生にかかわる業種に対する啓発、指導の実施。医療従事者養成機関との連携による人材育成の役割を果たすとともに、公衆衛生に関する情報の収集、提供。

歴代会長名

駒 井 英 二 ～昭和52.6 角 谷 三四郎 昭和52.7～昭和59.6  
宮 城 清 市 昭和59.7～平成14.6 寒 竹 米 一 平成14.7～現在

### 大正区民衛生向上会

創設年月日 昭和38年1月24日

目 的 急速な高齢化社会の進行と多様な文化、生活様式の変化の中で、地域住民の健康に関する切実な要請にかかわり、公衆衛生思想の普及及び保健衛生行政の運営に協力助成する。

活動状況 市民健康診査を始めとし、がん検診、生活習慣改善教室、食生活改善のための講習会等を積極的に助成している。また、よい歯のコンクール、子宮がん検診事業等を助成して母子保健の健康管理に万全を期している。  
一方、環境衛生対策として、ねずみ駆除のリーフレット等の作成及び配布、そ族こん虫駆除指導に努めている。

(歴代会長名)

駒井英二 昭和52.8～昭和59.7  
角谷三四郎 昭和52.9～昭和59.7  
宮城清市 昭和59.7～平成14.6 寒竹米一 平成14.7～現在

**大正区ふたば会**

設立年月日 昭和37年11月13日

目的 母となる日のために、妊娠中における日常生活の注意、健やかに生まれ出する祈りをこめて、充分な準備をするとともに、保健センターにおいて行われている母性の保護と愛児の保健についての母親教室・育児教室等を可能な限り利用し、家庭では母親として必要なしつけや保健、幼児を育てていく精神面の勉強などをし、お互い子を持つ母親としての仲間づくりをする機会をつくるために「母と子の健康を守り、家庭を明るく」をテーマに設立された。

活動状況 母子保健対策（乳幼児健診及び育成・家庭計画・講習会の推進）、感染性予防対策（各種予防接種の接種率向上、結核検診受診の促進及び周知の徹底）、生活習慣病対策（母親の健康管理、生活習慣病検診受診の促進と周知の徹底）、地域活動（地区理事を中心とした各種講演・勉強会の開催）、教宣活動（会報の発行）を行っている。具体的には総会、運動会で年度が始まり、夏のバスツアー、冬のクリスマスパーティ、見学会といった会員相互の親睦をはじめ、各種がん検診、市民健診事業の応援、啓発、ポリオの応援活動、ふたば会だよりの発行（年4回）による会員相互の情報交換、知識の普及、啓発を行っている。

現会長

肥塚典子 昭和37.11～現在

**大正区保健栄養推進協議会**

設立年月日 昭和47年1月10日

目的 「私達の健康は私達の手で」をスローガンとしてボランティア活動の精神に徹し、このスローガンの実現に努め「すこやか大阪21」の目標に向かって活動をすすめ、家庭と地域社会における女性の責任を認識し、食生活改善を通して、健康文化のまちづくりに努める。



活動状況 設立以来、上記スローガンを目標とし、区民の健康づくりのため、食生活改善を通じた普及活動を重ねてきた。

現在、生活習慣病や骨粗鬆症を予防し、健康寿命の延伸に努め、うす味の定着、肥満、貧血の予防をして健康度を高めるとともに運動習慣の定着を推進するため、ヘルスサポート21事業にはげみ、地域の食文化と健康づくりに努力し、21世紀を担う子どもたちの正しい食習慣の定着にも努力している。また、高齢化社会に対応した地域活動を積み重ねて、在宅介護食講習会も開催し、在宅介護食ボランティアを増やすこと、また未成年、次代を生み育む女性の禁煙をも推進し、そして食料資源を大切に、生ごみを少なく環境浄化にも努めている。

歴代会長名

奥田とみ子 昭和47.1～昭和47.12 小林一子 昭和48.1～現在

## 大正区寝たきり予防推進協議会（ふれあいの会）

設立年月日 昭和63年6月1日

目的 健康づくりや寝たきり予防活動に積極的に取り組み、健康で明るい地域社会づくりに寄与することと、会員相互の親睦を図ること。

活動状況 毎月1回例会を開催し、寝たきり予防のための地域リーダー養成を目的に勉強会、施設見学、会員相互の交流会等を行っている。

地区健康講座で、保健センター保健師と合同で、体操を実施したり、区民まつりで、家庭介護のための改良衣料のファッションショーや展示、ビーズマットの作り方の実演などを行っている。

また、機能計練修了者の会「ひまわりの会」のボランティアとして、活動を支援している。



現会長

坂 てる 昭和63.6～現在

## 社団法人 大阪市大正区医師会

創設年月日 昭和22年10月1日

目的 本会は、大正区の区域内において、医道の高揚、医学及び医術の発達普及と公衆衛生の向上を図り、もって社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

活動状況

- ・医師の倫理（医道）の高揚
- ・医学、医療の研鑽及び公衆衛生の向上並びに普及
- ・社会保険及び社会福祉の研究改善
- ・医業経営の研究並びに医師の権利擁護
- ・医療補助員の育成、確保並びに向上
- ・会員の相互扶助並びに融和懇親
- ・その他目的達成上必要な事項の推進



歴代会長名

岡 村 重治郎	昭和22.10～昭和23.3	串 田 一 義	昭和23.4～昭和24.3
西 浦 清 一	昭和24.4～昭和26.3	竹 村 刚	昭和26.4～昭和29.3
田 中 広 一	昭和29.4～昭和35.3	加 藤 丞	昭和35.4～昭和37.3
北 村 智 治	昭和37.4～昭和37.10	田 中 広 一	昭和37.10～昭和41.3
中 村 義 勝	昭和41.4～昭和53.3	鈴 木 正 朗	昭和53.4～平成5.3
伊 藤 武 彦	平成5.4～平成7.2	江 口 隆	平成7.3～平成14.3
莊 田 静	平成14.4～現在		

## 大正区歯科医師会

創設年月日 昭和7年10月

目的 常に歯学の研鑽を積み、医術の鍛磨と医学の高揚に努め、口腔歯科衛生の普及、向上および発展活動を通して地域住民の健康増進に寄与し、社会への貢献を図る。

活動状況 区民の健康診査や健康展などの事業を通じ、地域住民に対する口腔衛生観念の啓蒙、啓発活動。

1. 通年事業
  - 1歳半児健康診査
  - 3歳児健康診査
  - 市民健康診査
2. シルバーイージ・歯の健康まつり  
(6月 歯の衛生習慣)
3. みんなの健康展  
(10月 大正区民まつり)



#### 歴代会長名

中 村 義 金	昭和50.4～昭和51.3	梶 原 武 夫	昭和51.4～昭和52.3
吉 田 平 八	昭和52.4～昭和56.3	渡 辺 定 博	昭和56.4～昭和62.3
浅 塙 豊	昭和62.4～平成 7.3	小 野 勝	平成 7.4～平成13.3
小 泉 猛	平成13.4～現在		

#### 大正区薬剤師会

創設年月日 昭和 7 年10月 1 日

目 的 医療、薬学を通じて広く世のため人のために健康と厚生福祉の増進に寄与し、地域社会の医療の担い手として奉仕する。

活動状況 市民検診、区民まつり健康展、老人保健推進協議会、いきいきエイジングみおつくしプランなどの区民の健康に関する行事に参加協力するほか、各種「くすりと健康」に関する講習会を開催し、区民のくすりに対する意識向上推進のため活動をしている。

#### 歴代会長名

船 橋 博 賢	昭和23.4～昭和27.3	加 古 三 郎	昭和27.4～昭和31.3
井 奥 実	昭和31.4～昭和33.3	宮 地 熱	昭和33.4～昭和37.3
西 平 守 昌	昭和37.4～昭和41.3	山 岡 芳 雄	昭和41.4～昭和45.3
豊 田 博 文	昭和45.4～昭和48.3	喜 屋 善 夫	昭和48.4～昭和52.3
木 田 静 男	昭和52.4～昭和57.3	加 古 正 彦	昭和57.4～平成 4.3
鈴 木 弘 子	平成 4.4～平成 6.3	金 城 鉄 男	平成 6.4～平成12 3
加 古 正 彦	平成12.4～現在		

## 7. 商工業関係

#### 社団法人 大正工業会

設立年月日 昭和26年12月 8 日

目 的 会員相互の融和親睦並びに工業に関する専門知識と教養を高め、併せて、会員とその所属員の福利厚生を増進し、且つ、地域社会との共生を図り、工業人としての使命遂行に努めることを目的とする。

活動状況 区内における産業団体として設立目的に沿って会員事業の経営活動の支援、技術の向上、情報の提供及び会員と従業員の福利厚生の充実を図る諸事業を積極的に推進している。また、地域の諸団体との交流・連携を深め、共に、関係機関の指導のもと、安全で明るく住み良い地域社会の形成に協力している。

そのほか、労働保険事務組合として会員企業の委託を受けて、雇用保険の資格喪失事

務や労災保険に関する手続及び当該保険料の申告納付等の事務を代行している。

歴代会長名

駒 井 英 二 昭和26.12～昭和51.4 春 本 利 雄 昭和51.4～昭和54.4  
稗 田 晃 也 昭和54.4～平成11.12 則 武 亨 平成12.2～平成14.4  
三 好 智 一 平成14.6～現在

**大正区小売商団体連絡協議会**

創設年月日 昭和37年 6月21日

目 的 加盟団体である小売商業界の振興発展に寄与する事業を行うとともに必要な連絡調整を行い、かつ傘下会員の親睦を図る。

活動状況 区民まつりやふれあいフェスティバルの参加を始め、各種イベントを開催。特に区民まつりの際は露店バザールコーナーの運営を行う一方、各商店街、市場において協賛セールを行い、お買い物券を区民に配布することによってまつり会場への集客を図っている。また、毎年新年懇親会を開催し、会員相互の親睦を図っている。

歴代会長名

松 本 一 彦 昭和37.6～昭和55.9 富 野 多計男 昭和55.9～昭和59.8  
北 浦 茂 男 昭和59.9～平成12.3 浅 居 秀 一 平成12.4～現在

**大正区商店会連盟**

創設年月日 昭和21年 9月

目 的 大正区内の商店会の繁栄と商業者の地位向上に必要な事業を推進し、会員相互の啓発と親睦を図り團結を強化し、商業の発展に寄与する。

活動状況 商店の近代化、合理化を推進する意味での優良店舗コンクールの実施をはじめ、各種の事業を展開、特に毎年新春に企画している旅行事業では区内消費者多数の参加を得ている。区民まつりやふれあいフェスティバルにおけるコーナーの開催に協力している。

歴代会長名

安 井 友三郎 昭和21.9～昭和23.2 横 山 栄 吉 昭和23.3～昭和26.8  
宮 内 栄 昭和26.9～昭和32.3 松 本 一 彦 昭和32.4～昭和55.9  
富 野 多計男 昭和55.9～昭和58.3 北 浦 茂 男 昭和58.4～平成12.3  
浅 居 秀 一 平成12.4～現在

**大正区市場連合会**

創設年月日 昭和32年 2月

目 的 会員相互の親睦を図り、区内市場乱立と過当競争を防止し、併せて市場商人の発展を期する。

活動状況 区民まつりへの参加をはじめ、大正区小売商団体連絡協議会事業への積極的に参加する一方、市場連合会事業として「区民まつり」などの開催に協力している。

歴代会長名

西川路 貞 治 不詳 ～昭和48. 森 岡 義 運 昭和48.～昭和53.  
加 藤 春 一 昭和53.～昭和57. 端 野 彰 昭和57.～昭和59.  
中 島 昌 保 昭和59.～昭和61. 端 野 彰 昭和61.～昭和63.  
坂 東 和 幸 昭和63.～平成2. 中 島 昌 保 平成2.～平成3.  
村 里 壽 幸 平成3.～平成4. 美 淑 晴 雄 平成4.～平成6.

市 村 元 恒 平成 6. ～平成 8. 田 中 成 朗 平成 8. ～平成 9.  
美 淋 晴 雄 平成 9. ～平成 10. 市 村 元 恒 平成 10. ～現在

### 大正区米穀連絡協議会

創設年月日 不詳

目 的 大正区内の登録米穀小売商業者の相互の親睦を図るとともに、消費者ニーズに対応した米穀の適正かつ円滑な供給に資することを目的とする。

活動状況 料理実習会などの事業を通じて、米穀の需給に係る調査・研究及び米の消費拡大を行い、また、災害時における米穀の確保及び供給のほか、米穀の適正かつ円滑な供給を図る。

歴代会長名

吉 田 兵 藏 昭和36. ～昭和43.	児 島 正 義 昭和44. ～昭和45.
兼 田 久 志 昭和46. ～昭和48.	上 田 春之助 昭和49. ～昭和52.
栢 木 芳 昌 昭和53. ～昭和54.	籾 田 恵 昭和55. ～昭和58.
内 原 繁 雄 昭和59. ～平成 9.	籾 田 恵 平成10. ～現在

## 8. 区政・水防・防犯・交通安全・防火活動関係

### 大正区政協力会

創設年月日 昭和52年11月18日

目 的 区内各種団体の連絡協調と会員相互の親睦、知識の向上を図るとともに、広く区行政に協力して、大正区の発展に寄与する。

活動状況 大正区復興委員会の発展的解消により、それに代わる新組織として結成され、新年互会の開催、各種団体役員名簿の発行など、区内各種団体の連絡協調を図るとともに、21世紀にふさわしい街づくりの推進をめざして昭和60年1月23日に「21世紀街づくり計画推進会議」を設置し、また、平成11年7月23日には、21世紀の大正区の街づくりに資する目的をもって、将来の大正区を担う世代を対象として組織し、協力会の発展に寄与するため「明日の大正区を考える会」を設置、活力と潤いのある地域社会の実現にむけて活動している。

歴代会長名

宮 城 清 市 昭和52.11～現在

### 淀川左岸水防事務組合大正区水防団

設置年月日 昭和21年7月31日

目 的 水防法及び大阪府水防計画に基づき、区の高潮による水災を警戒、防御しこれによる被害を軽減する。

活動状況 非常災害時に備え、平常より堤防・河川の監視、水防倉庫などの施設の点検及び防潮鉄扉の管理を行っている。

公道・企業内の防潮鉄扉の開閉を迅速に行えるよう毎年定期的に操作訓練や通信連絡を中心とした無線訓練などの水防訓練を実施している。

各種工法の習熟を図り、団員に知識・技術が伝わるよう工法指導者訓練を実施している。



大正区震災訓練においては、「土のうこしらえ」「改良積土のう工」「釜段工」などの工法訓練を実施している。

また、台風接近時等においては、高潮による水災から区民の生命と財産を守るため警戒出動している。

#### 歴代本部長

片 岡 茂 吉	昭和21.7～昭和23.3	伊 藤 友 助	昭和23.4～昭和53.6
伊 藤 増 夫	昭和53.8～昭和55.4	川 崎 茂 雄	昭和55.5～昭和63.8
田 和 守	昭和63.9～平成3.3	山 北 真	平成3.4～平成6.7
宮 内 博 臣	平成7.4～現在		

#### 大正区花と緑のまちづくり推進委員会

創設年月日 昭和56年5月26日

目的 花と緑あふれる美しいまちづくりを推進し、花と緑をいとおしみ育む心を広げ、育む緑で緑化を図り環境の美化及び、地域コミュニティ意識の高揚に寄与する。また、目的達成に向け「緑化リーダー」が各地域で活躍している。

活動状況 推進委員会として、次の事業を展開している。

- ・「緑化リーダー」区民向けの「花の講習会」を年2回開催。
- ・区役所2階ロビーにおいて、八幡屋公園事務所による「緑化相談」を年4回開催。
- ・「大正区花マップ」等、緑化啓発資料の作成と配布。
- ・各種イベントにおいて、緑化啓発物品（花鉢等）の配布。



#### 現会長

宮 城 清 市 昭和56.5～現在

#### 大正防犯協会

設立年月日 昭和22年

目的 犯罪のない明るい地域社会を実現するため、警察その他関係機関・団体と連携し、区民の防犯意識の高揚と効果的な防犯活動を行う。

活動状況 地域防犯部・職域防犯部・工場防犯部の3部が中心となり、大正警察署及び関係機関と連携し、春の全国地域安全運動及び年末年始の特別警戒並びに日頃における防犯諸活動を通じて、自主防犯思想の普及と啓発・実践的防犯対策の促進・街頭犯罪被害防止のための施策の推進を実施し、区民の防犯意識の高揚と犯罪のない安全で安心な街づくり実現のための重要な役割を担っている。

#### 歴代会長名

浅 野 米 吉	昭和22.～	宮 内 省	～昭和30.
松 尾 竹 夫	昭和30.～昭和34.	駒 井 英 二	昭和34.～昭和53.
春 本 利 雄	昭和54.～昭和62.	稗 田 晃 也	昭和62.～平成12.
三 好 智 一	平成12.～現在		

## 大正交通安全協会

設立年月日 昭和25年4月1日

目的 交通事故防止及び円滑な交通の実現に寄与する。

活動状況

- ・交通安全教育に関すること。  
(免許更新時講習、一般運転者・事業所運転管理者・高齢者等各種講習会の開催)
- ・広報宣伝及び街頭指導に関すること。(街頭キャンペーンほか交通安全実施)
- ・交通関係従業員の表彰に関すること。(一般優良運転者、特定優良運転者等の表彰等)
- ・交通安全についての調査研究に関すること。  
(各種研修会の開催、交通白書等の作成)
- ・交通安全施設の整備改善に関する協力。
- ・毎年春・秋の「全国交通安全運動」の一環としてJR大正駅前において、区長、大正警察署長並びに市民が一体となって交通安全の街頭キャンペーンを行っている。



(歴代会長名)

則 武 仁十郎 昭和25.4～昭和42.3 関 野 省 治 昭和42.4～昭和52.4  
則 武 亨 昭和52.5～平成14.4 川 澄 慶 昭 平成14.5～現在

## 大正区防火協力会

創設年月日 昭和23年3月

目的 消防署が行う消防行政に側面から協力して、  
その運営を助成し、もって、管内の安寧を図り、  
その繁栄と幸福に資する。

活動状況 防火思想の普及・災害予防の調査研究・防災施設の充実強化などの事業を行っている。



歴代会長名

浅 野 藤太郎 昭和23.3～昭和45.4 島 田 孝 治 昭和45.4～昭和56.5  
重 兼 暢 夫 昭和56.5～昭和60.5 則 武 亨 昭和60.5～平成9.5  
稗 田 晃 也 平成9.5～平成11.12 北 浦 茂 男 平成12.5～現在

## 大正地区土地区画整理協議会

創設年月日 平成6年10月

目的 土地区画整理事業の収束に伴い、大阪都市計画事業大正地区復興土地区画整理審議会解散後(平成6年10月)、大正区における残事業(記念事業)を継続実施するために創設。

活動状況 平成11年11月11日に開設された大正地区文化交流プラザ(アゼリア大正)や、現在、建設中の(仮称)千歳橋の竣工を見守るなど、大正区の発展に向け活動している

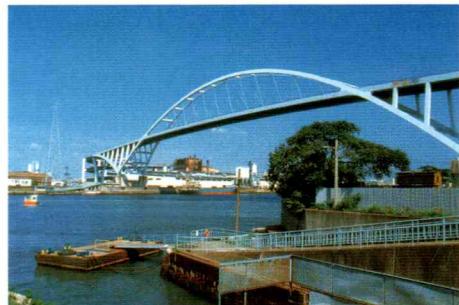
現会長

山 口 清 治 平成6.10～現在

# 主要事項年表 平成4年(1992年)10月~

## 平成4年(1992年)

- 10月 ● 区制施行60周年記念式典・祝賀会
- 11月 ● 鶴町福祉社会館設立20周年
  - 大正区少年軟式野球連盟結成15周年
  - 中央卸売市場業務管理棟オープン



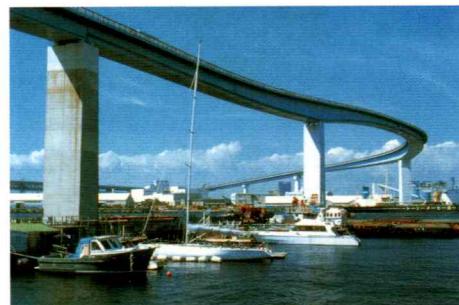
## 平成5年(1993年)

- 1月 ● 北恩加島小学校創立70周年
- 2月 ● 大正消防署泉尾出張所オープン
- 3月 ● 地下鉄動物園前～天下茶屋間開通
- 5月 ● 市立大学医学部新附属病院オープン
- 6月 ● 大阪大正ライオンズクラブ設立30周年
  - 弁天町市民学習センターオープン
  - クレオ大阪北オープン
- 7月 ● 全土曜日閉庁実施
- 9月 ● ノーポイモデルゾーン設定
- 10月 ● 第19回大正区民まつり
  - 小林小学校創立20周年
  - ニュートラムで列車事故発生
  - UNEP国際環境技術センターオープン
- 12月 ● 大正区ソフトボール連盟結成15周年
  - 市立総合医療センターオープン

- 10月 ● 資源ごみ収集を全市で実施
- 第20回大正区民まつり
- 11月 ● 南恩加島小学校創立70周年
  - 大正少年剣道部推進会結成10周年
  - サイゴン港と姉妹港に
  - クレオ大阪西オープン
  - 泉尾北小学校創立80周年
- 12月 ● 中泉尾小学校創立70周年
  - 平尾商店街アーケード完成

## 平成7年(1995年)

- 1月 ● 大正区在宅サービスセンター(ふれあい福祉センター)オープン
- 阪神・淡路大震災で被害
- なみはや大橋開通



## 平成6年(1994年)

- 3月 ● 第1回きらめき賞贈呈
- 4月 ● ワンステップバス運行開始
  - アジア太平洋トレードセンター(ATC)オープン
  - 点字広報「市政だより区版」発刊
- 5月 ● 小林公園集会所オープン
  - 舞洲スポーツアイランド一部供用開始
- 6月 ● 阿倍野市民学習センターオープン
- 7月 ● 初の区在宅サービスセンターオープン(此花区)
  - 大阪鶴見花き地方卸売市場オープン
- 9月 ● 関西国際空港開港
  - 新木津川大橋開通

- 3月 ● 2008年第29回オリンピック競技大会の大坂招致宣言
- 鶴見はなぽーとプロッサム完成
- 4月 ● 泉尾中通商店街文化会館オープン
  - 大阪ワールドトレードセンター(WTC)オープン
  - 下水道科学館オープン
  - ふれあい港館オープン
- 7月 ● 上海とビジネスパートナー都市に
- 9月 ● 世界夜景会議開催

- 10月 ● 泉尾第二工業高等学校創立70周年  
 ● 三軒家東小学校創立120周年  
 ● 個人情報保護条例スタート  
 ● ダイヤモンド地下街(ディアモール大阪)オープン  
 ● 舞洲アリーナオープン  
 ● 大阪オリンピック招致推進会議設置  
 ● 「くらしの便利帳」発行  
 ● 第21回大正区民まつり
- 11月 ● 平尾小学校創立40周年  
 ● 大正西中学校創立40周年  
 ● 大正区子ども会女子キックベースボール連盟結成15周年  
 ● ポイ捨て防止条例スタート  
 ● APEC大阪会議開催  
 ● 水道記念館オープン
- 12月 ● 泉尾東小学校創立120周年  
 ● 磯村隆文氏第16代市長に就任

## 平成8年(1996年)

- 3月 ● 平尾商店街サンクスホールオープン  
 ● (財)大正区コミュニティ協会設立10周年  
 ● 大正西地域在宅サービスステーション(ファミリー)オープン  
 ● OCAT(大阪シティエアターミナル)オープン
- 4月 ● 済生会第2特別養護老人ホーム(シルバークレイン)オープン



- 大正区保健栄養推進協議会(つくしの会)結成25周年  
 ● 鞠テニスセンターオープン
- 5月 ● おとしよりすこやかセンター南部館オープン  
 ● 大阪プールオープン

- 5月 ● 新中央体育館オープン  
 6月 ● 長居陸上競技場リニューアルオープン  
 7月 ● 新中央図書館オープン  
 ● 各区で広報紙を発刊
- 8月 ● なみはや国体リハーサル大会(全日本実業団ソフトテニス大会)  
 於:マリンテニスパーク・北村  
 ● 泉尾浜公園集会所オープン
- 9月 ● 大正区商店会連盟結成50周年  
 ● 2008年オリンピックに立候補
- 10月 ● 大正区水防団結成50周年  
 ● 第22回大正区民まつり  
 ● 市立大学学術情報総合センターオープン
- 11月 ● 済生会病院訪問看護ステーションオープン  
 ● 三軒家西小学校創立80周年
- 12月 ● みおつくし総合ネットがスタート  
 ● 大阪がワールドカップサッカー会場に

## 平成9年(1997年)

- 3月 ● 三軒家西幼稚園創立50周年  
 ● JR大正駅リニューアルオープン  
 ● 大阪城天守閣リニューアルオープン  
 ● 大阪ドームオープン  
 ● SAILOSAKA '97開催(～5月)
- 4月 ● 生き生き地球館オープン
- 5月 ● クリスト長堀オープン
- 6月 ● 大正やすらぎ会館オープン  
 ● 泉尾商店街アーケード完成  
 ● 大正区ソフトボール連盟結成20周年
- 7月 ● キッズプラザ大阪オープン  
 ● フェスティバルゲートオープン
- 8月 ● 地下鉄長堀鶴見緑地線門真南～大正が開通



- 2008年オリンピック  
 国内候補都市に決定

- 8月・なみはや国体炬火リレー
- 9月・なみはや国体開催（～10月）
- 10月・第23回大正区民まつり
  - ・舞洲障害者スポーツセンターオープン
  - ・ペットボトルの分別収集を開始
  - ・インターネット・大阪市ホームページ開設
- 11月・大正中央中学校創立50周年
  - ・大正区老人クラブ連合会結成40周年
  - ・大正工業若葉会結成40周年
  - ・大正北中学校創立20周年
  - ・大正東中学校創立50周年
  - ・ふれ愛ぴっく大阪開催
- 12月・テクノポート線開通

## 平成10年（1998年）

- 1月・舞洲陶芸館オープン
- 2月・大正区少年軟式野球連盟結成20周年
- 3月・高度浄水処理水通水開始
- 4月・新大正区民音頭発表会
- 5月・おとしよりすこやかセンター  
東部館・南部花園館オープン
- 6月・大正区寝たきり予防推進協議会  
(ふれあいの会) 結成10周年
- 7月・三軒家東第二福祉社会館オープン
- 9月・アジア卓球選手権大阪大会
- 10月・第24回大正区民まつり
- 12月・2008オリンピック大阪招致を閣議了解

## 平成11年（1999年）

- 1月・泉尾幼稚園創立70周年
- 2月・大阪オリンピック招致委員会設立
- 3月・東洋陶磁美術館新館オープン
  - ・地域振興券交付開始
  - ・ラスパロSAKA  
(市立ゆとり健康創造館) 開設
- 4月・市制施行110周年
  - ・メルボルン／大阪ダブルハンド  
ヨットレース1999開催
- 7月・大正区地域振興会（赤十字奉仕団）  
結成50周年
  - ・平尾公園会館オープン

- 9月・世界新体操選手権大阪大会
- 10月・第25回大正区民まつり
  - ・要介護認定の申請受付開始
  - ・科学館がリニューアルオープン
  - ・G A I S F 総会開催
  - ・クラフトパークオープン
- 11月・アゼリア大正  
(大正地区文化交流プラザ) オープン



- ・住まいの情報センター・  
子育ていろいろ相談センターオープン

## 平成12年（2000年）

- 1月・大正東地域在宅サービスステーション  
(いずみの家) オープン
  - ・芸術創造館オープン
- 2月・大正少年剣道部結成15周年
- 3月・大正区子ども会育成連合協議会  
結成40周年
  - ・2008オリンピック招致  
大正区民会議設立
  - ・高度浄水処理水が全域に
- 4月・新しい地域保健体制がスタート
- 5月・南恩加島公園整備
  - ・介護保険制度スタート
  - ・おとしよりすこやかセンター  
西部館オープン
- 7月・なにわの海の時空館オープン
  - ・夢洲・舞洲を結ぶ夢舞大橋架設
- 8月・2008年夏季オリンピックの  
正式立候補都市に決定
- 9月・大正区母と子の共励会結成50周年
  - ・一商店街一国運動(平尾商店街)
  - ・天王寺動物園にアフリカサバンナ区  
草食動物ゾーンオープン
- 10月・第26回大正区民まつり

- 10月●生涯学習大正区民会議設立  
●大正区子ども会女子キックベースボール連盟結成20周年  
●「まち美化パートナー制度」導入
- 11月●鶴浜小学校創立20周年  
●「ねんりんぴっく2000大阪」開催

## 平成13年(2001年)

- 1月●大阪産業創造館オープン
- 2月●大正区柔道連盟結成25周年
- 3月●IOC評価委員会歓送迎(大阪ドーム)  
●大正区体育厚生協会創設50周年
- U.S.J(ユニバーサルスタジオジャパン)オープン
- 4月●住まいのミュージアムオープン  
●世界卓球選手権大会
- 5月●東アジア競技大会  
●大正区保健栄養推進協議会(つくしの会)結成30周年  
●(社福)大正区社会福祉協議会設立50周年
- 7月●2008オリンピック開催都市決定(北京)
- 9月●世界観光機関(WTO)総会
- 10月●クレオ大阪中央オープン  
●第27回大正区民まつり
- 11月●大正区地域女性団体協議会結成50周年  
●2008オリンピック招致  
大正区民会議解散  
●鶴町小学校創立80周年  
●大阪歴史博物館オープン

## 平成14年(2002年)

- 1月●やすらぎ天空館(市立葬祭場)開設
- 3月●知的障害者更生施設(ふくろうの杜)オープン
- 5月●城北市民学習センターオープン  
●2002FIFAワールドカップ開幕
- 7月●港町リバーブレイスオープン  
●キッズプラザリニューアルオープン
- 10月●区制施行70周年記念式典・祝賀会  
●区制施行70周年記念

- 10月●第28回大正区民まつり



- 泉尾工業高等学校創立80周年
- 11月●北恩加島小学校創立80周年  
●済生会泉尾第2病院開院  
●中央公会堂リニューアルオープン
- 12月●大正区ふたば会結成40周年

## 平成15年(2003年)

- 1月●大阪市社会福祉研修・情報センターオープン
- 2月●国際親善車椅子バスケットボール大阪大会

## 歴代区長

代	氏名	在職期間	代	氏名	在職期間
初代	今村千吉	昭和7.10~10.5	2代	梅原和三郎	昭和10.5~12.7
3代	山本慶治	昭和12.7~13.5	4代	津山直一	昭和13.5~15.8
5代	上田實光	昭和15.8~18.1	6代	三井正雄	昭和18.1~21.2
7代	吉田初一郎	昭和21.2~24.9	8代	前田宗一	昭和24.9~28.7
9代	武居政夫	昭和28.7~31.9	10代	竹下重義	昭和31.9~37.10
11代	金森壽夫	昭和37.10~38.6	12代	日下義雄	昭和38.6~41.7
13代	横田經明	昭和41.7~45.3	14代	成川芳雄	昭和45.4~48.4
15代	松井弘	昭和48.4~51.3	16代	中永強司	昭和51.4~53.3
17代	木村進	昭和53.4~57.4	18代	桐山克巳	昭和57.4~62.4
19代	松本詔	昭和62.4~平成元.4	20代	小西靖彦	平成元.4~4.4
21代	古谷泰啓	平成4.4~6.3	22代	田原博夫	平成6.4~9.3
23代	半野田幸次郎	平成9.4~12.3	24代	池上良夫	平成12.4~現在

## 歴代市議員

氏名	在職期間	氏名	在職期間
田中藤太郎	昭和4.6~8.5	北橋秀松	昭和4.6~8.5
田中藤太郎	昭和8.6~12.5	木村栄蔵	昭和8.6~12.5
浅野藤太郎	昭和8.6~12.5	中谷 弥	昭和8.6~9.11
浅野豊行	昭和10.6~12.5	浅野藤太郎	昭和12.6~17.5
大西菊次郎	昭和12.6~17.5	中野光義	昭和12.6~17.5
浅野豊行	昭和12.6~16.12	浅野藤太郎	昭和17.5~22.4
相原吉之助	昭和17.5~22.4	木村 栄	昭和17.5~22.2
大西菊次郎	昭和17.5~21.2	金田喜代一	昭和17.5~18.6
金田喜代一	昭和21.6~21.11	浅野藤太郎	昭和22.5~26.4
西風金之助	昭和22.5~26.4	浅野藤太郎	昭和26.5~30.4
西風金之助	昭和26.5~30.4	浅野藤太郎	昭和30.5~34.4
西風金之助	昭和30.5~34.4	浅野藤太郎	昭和34.4~38.4
西風金之助	昭和34.4~38.4	浅野藤太郎	昭和38.4~42.4
西風金之助	昭和38.4~42.4	村田 岩雄	昭和38.4~42.4
西風金之助	昭和42.4~46.4	村田 岩雄	昭和42.4~46.4
室屋定三	昭和42.4~46.4	西風金之助	昭和46.4~50.4
村田岩雄	昭和46.4~50.4	室屋定三	昭和46.4~50.4
村田岩雄	昭和50.4~54.4	室屋定三	昭和50.4~54.4

向井 啓	昭和50.4～54.4	村田 岩雄	昭和54.4～58.4
室屋 定三	昭和54.4～58.4	矢達 幸	昭和54.4～58.4
室屋 定三	昭和58.4～62.4	向井 啓	昭和58.4～61.6
松村 将司	昭和58.4～62.4	矢達 幸	昭和61.7～62.4
矢達 幸	昭和62.4～平成3.4	松村 将司	昭和62.4～平成3.4
舟戸 良裕	昭和62.4～平成3.4	松村 将司	平成3.4～平成7.4
矢達 幸	平成3.4～平成7.4	舟戸 良裕	平成3.4～平成7.4
松村 将司	平成7.4～平成11.4	矢達 幸	平成7.4～平成11.4
福山よしてる	平成7.4～平成11.4	矢達 幸	平成11.4～現在
舟戸 良裕	平成11.4～現在	福山よしてる	平成11.4～現在

## 歴代府議会議員

氏名	在職期間	氏名	在職期間
於勢 升	昭和6.10～10.9	浅野 藤太郎	昭和6.10～10.9
深見 源吉	昭和6.10～10.9	浅野 藤太郎	昭和10.10～14.9
深見 源吉	昭和10.10～14.9	押谷 平七	昭和10.10～14.9
浅野 藤太郎	昭和14.10～22.4	押谷 平七	昭和14.10～22.4
浅野 豊行	昭和14.10～16.12	大西 菊次郎	昭和14.10～22.4
浅野 豊行	昭和22.5～26.4	浅野 豊行	昭和26.5～29.3
鈴木 清	昭和29.4～30.4	横山 栄吉	昭和30.5～34.4
浅野 二三夫	昭和34.4～38.4	浅野 二三夫	昭和38.4～42.4
横山 栄吉	昭和38.4～42.4	浅野 二三夫	昭和42.4～46.4
横山 栄吉	昭和42.4～46.4	亀谷 富蔵	昭和46.4～50.4
大川 正行	昭和46.4～50.4	大川 正行	昭和50.4～54.4
大川 正行	昭和54.4～58.4	大川 正行	昭和58.4～62.4
大川 正行	昭和62.4～平成3.4	大川 正行	平成3.4～7.4
小川 立義	平成7.4～9.4	小谷 三鈴	平成9.6～11.4
小谷 三鈴	平成11.4～現在		

# 区制施行70周年記念事業実行委員会名簿

## 【委員長】

宮城清市

## 【副委員長】

北 浦 茂 男	中 道 良 明	久 保 末 喜
寒 竹 米 一	浅 野 八 郎	川 崎 愛 子
三 好 智 一	浅 居 秀 一	莊 田 静

## 【会計】

池田富士雄

## 【監事】

三宅尉雄 鶴矩好

## 【委員】

尼 丁 正 寄	市 村 元 恒	植 田 正 雄
大 谷 重 治	加 古 正 彦	神 谷 清 子
川 本 悅 子	金 城 豊 秀	桑 畑 芳 郎
肥 塚 典 子	小 泉 猛	小 林 一 常
小 山 実 実	坂 て 佐	佐 倉 常 成
砂 原 國 子	田 頭 仁 枝	田 中 朗
富 野 多 計 男	中 村 匠	中 山 省 治
中 山 良 明	西 野 節 子	畠 ひろ子
服 部 恭 二	原 アサミ	稗 田 英 紀
廣瀬 ハナ子	福 田 守	藤 木 保 夫
藤 田 和 仁	松 岡 植	

## 【参与】

池上良夫

## 【顧問】

矢 達 幸	舟 戸 良 裕	福 山 よ し て る
小 谷 三 鈴	高 木 洋	久 保 盛 一
奥 町 富 久 丸		

## 区制施行70周年記念事業賛助団体等名簿

大正区政協力会	大阪大正ライオンズクラブ
(社福) 大正区社会福祉協議会	(社) 大正工業会
大正区地域振興会	大正区商店会連盟
大正区民生委員協議会	大正区地域女性団体協議会
大正区医師会	大正区歯科医師会
大正区薬剤師会	大正区体育厚生協会
大正防犯協会	大正区防火協力会
(社) 大阪府トラック協会大正支部	大正区沖縄県人会
大阪沖縄県人会連合会	(財) 大阪沖縄協会
泉尾医療福祉センター	岩田土地(株)
千島土地(株)	(株) 南喜葬祭
大正区水防団	大正区選挙管理委員会
大正地区保護司会	大正区更生保護婦人会
大阪市遺族会大正区支部	大正区母と子の共励会
大正区老人クラブ連合会	(財) 皓養社
大正交通安全協会	大正区 P T A 協議会
大正工業若葉会	大阪府公衆浴場業生活衛生同業組合大正支部
大阪府クリーニング業生活衛生同業組合大正支部	大阪府食肉生活衛生同業組合大正支部
大正区麻雀業組合	大正病院
(財) 大井伊助積善会	大阪羽地郷友会
大正区身体障害者団体協議会	大阪市知的障害者育成会大正区支部
大阪市傷痍軍人会大正区支部	大阪市傷痍軍人妻の会大正区支部
大正区P T A 友の会	大正区子ども会育成連合協議会
大正区青少年指導員連絡協議会	大正区体育指導委員協議会
大正区ふたば会	大正区つくしの会
大正区ふれあいの会	大阪府鍼灸マッサージ師会大正師会
大阪府小売酒販組合港税務署管区港支部	泉尾土地(株)
大阪木材土地(株)	(株) 大阪シティドーム
川村あや子	宮内武子
大正リトル・シニアリーグ野球協会	(社) 港納税協会
大阪市生涯学習推進員大正区連絡会	港納税貯蓄組合連合会
大正区民衛生向上会	大阪府鍼灸師会大正・西支部
大阪府美容生活衛生同業組合大正支部	大阪府理容生活衛生同業組合大正支部
大正区米穀連絡協議会	大阪府喫茶業生活衛生同業組合大正支部
大正菓業会	(社) 大阪府宅地建物取引業協会大正区支部・大正区不動産事業協同組合
大古防犯協会	大阪質屋協同組合大正支部
大阪大正自動車整備事業協同組合	大阪府塩販売組合大正支部
大阪府書店商業組合第7支部	大阪海運事業協同組合
(財) 大阪市都市整備協会	(株) 中島不動産事務所
(株) 月華殿	(株) スーパーナショナル
(株) 川上産業社	大阪信用金庫大正支店
近畿労働金庫大正支店	多根総合病院
川上正秀	斎ノ内清
山北喜一郎	

(順不同・敬称略)

## 空から見た大正区

(昭和23年撮影)



## 空から見た大正区

(平成 9 年撮影)



## あとがき

大正区が、昭和7年10月1日に港区から分区誕生して、平成14年10月1日に満70周年を迎える、更なる飛躍発展を願い、多くの区民のご参加のもと盛大に記念式典と祝賀会を実施しました。

これにあわせて、各種団体・企業をはじめ、多数の皆様のご支援をいただき様々な記念事業を展開したところであります。その一環として、記念誌“わがまち大正”を発行することとなりました。

内容は、区制60周年記念誌“わがまち大正”を基調としつつ、年表・統計資料などは、それ以降のものを収録しています。これを機に、大正区のなりたちや現在の大正区勢を知っていただき、“心と心のふれあうあたたかい、人情味あふれる、明るい、住みよい、優しい大正区”のまちづくりの一助としていただければと思い編集いたしました。編集にあたり、資料提供やご助言をいただきました各官公署ならびに関係各位に対し、心から厚くお礼申しあげます。

編集を終えるにあたり、限られた時間のなかでの資料収集や整理など、編集作業に追われたこともあります。決してご満足いただけるものとなっておりませんが、ご高覧賜れば幸甚に存じます。

平成15年3月

大正区制施行70周年記念事業実行委員会

---

**写真・資料提供** (敬称略・順不同)

大阪府立中之島図書館  
大阪市史編纂所  
大阪市建設局  
大正区役所  
(財) 大阪市都市工学情報センター  
(株) 郷土出版社  
大正区史  
区制60周年記念誌 (わがまち大正)

---

大正区制施行 70周年記念誌

**わがまち大正**

発 行 平成15年3月  
編集・発行 大正区制施行70周年記念事業実行委員会  
印刷・製本 (株)国際印刷出版研究所



### 大正区の花 つつじ

区の花「つつじ」は、コミュニティづくりと緑豊かな町づくりを推進する事業の一環として区のシンボルとなり、末永く区民に愛される花となることを願って公募により、昭和62年10月に決定されました。

